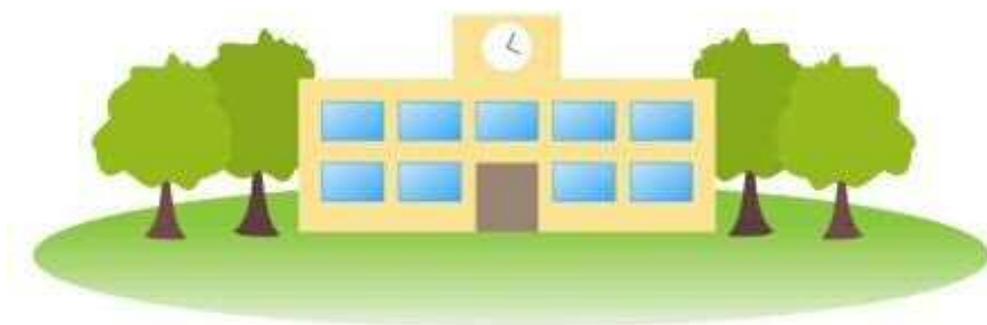


令和元年度 教育委員会の事務 に関する点検評価報告書



令和2年11月
海津市教育委員会

目 次

I はじめに	・・・・・・・・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）	
(4) 点検・評価結果の構成	
II 教育委員会の会議及び教育委員の活動状況	・・・・・・・・ 4
(1) 会議の開催	
(2) その他の活動状況	
①教育委員の研修状況	
②教育委員の学校訪問等	
③総合教育会議への出席	
④教育委員の関係行事等への出席	
⑤広報活動	
III 教育委員会の施策 点検・評価	・・・・・・・・ 9
(1) 教育振興基本計画の基本理念	
(2) 基本的観点	
(3) 計画の体系	
(4) 内部進捗評価一覧表	
(5) 施策の総合点検評価	
IV 教育委員会の施策 外部評価	・・・・・・・・ 54
(1) 外部評価一覧表	
(2) 外部評価（学識経験による意見）	

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I はじめに

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という）の規定により、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられています。

この法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的として、海津市教育委員会の事務に関する点検及び評価を実施するものです。

(2) 点検・評価の対象

平成31年3月に策定した「第2次海津市教育振興基本計画」における、教育委員会の所管となる6つの基本目標のもと20の施策を点検と評価の対象としています。

(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）

点検・評価は、教育振興基本計画に基づき長期的な視野に立って教育行政を推進していくためには、P（Plan：計画）、D（Do：実行）、C（Check：点検・評価）、A（Action：改善）のマネジメントサイクルによる進行管理の中で毎年度点検・評価を実施し、評価結果を十分に活用して次年度以降の具体的な事業を検討することが必要となります。そのため令和元年度に実施した事業の取り組み状況を明らかにするとともに、今後の課題と対応の方向性を示すこととしています。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から外部検証評価と意見、助言をいただきます。

(4) 点検・評価結果の構成

ア. 基本目標・施策・施策方針

海津市教育振興基本計画（第2次）に掲げる基本目標です。

イ. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

基本目標・施策に関する進捗評価を実施しています。また、進捗評価の理由および今後の方向性についても記載しています。

進捗の評価区分 (4段階)	S・・・・・・・・予定以上に進んでいる。 A・・・・・・・・予定どおり進んでいる。 B・・・・・・・・少し遅れている。 C・・・・・・・・大幅に遅れている。
------------------	---

ウ. 参考とする指標

第2次海津市総合計画による参考とする指標を示しています。

エ. 基本施策に関する評価シート

20の施策に掲げたそれぞれの「基本施策」をシートに取りまとめています。

①基本施策〔取組目標 年度計画〕

各施策に掲げられた取り組むべき目標とその年度の計画を示しています。

②基本施策〔実績成果 課題〕

年度計画の実施に伴いその内容と成果及び課題等を示しています。

③内部評価

基本施策に伴う実績成果・課題を踏まえ4段階評価をしています。

◎・・・・・・・・十分達成

○・・・・・・・・おおむね達成

△・・・・・・・・やや不十分

×・・・・・・・・達成できず

記載事項説明書

第2次海津市教育振興基本計画における「基本目標」と「施策の方針」と「基本施策」

施策の総合点検評価

担当課

教育総務課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	外部評価
施策	8 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		
施策方針	今後、少子化が進むことが予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点を踏まえ、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に検討していきます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

進捗の評価

S A B C

1. 施策の進捗状況と方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる		進捗評価の理由および施策の方向性などを記載
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時(H27)	実績値(R1)	目標値(R3)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80%		100%

学習状況調査結果より(対象:小6、中3)

行政評価の実績値を記載

内部評価(所属課)

◎ ○ △ ×

3. 基本施策に関する評価シート(★)

①「海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会」の設置と協議

取組目標	児童生徒の減少が進む中で、学習環境の充実、指導の充実、教育水準の維持向上を図る観点から学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に協議します。	
年度計画	Plan「P」(計画)	内部評価
実績成果	Do「D」(実行)	check「C」(評価)
課題	Action「A」(改善)	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

重点的な取り組み「★」

Ⅱ 教育委員会の会議及び 教育委員の活動

Ⅱ 教育委員会の会議及び活動状況

令和元年度の教育委員会の活動について、「教育委員会会議」と「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会自身による点検を行いました。

(1) 会議の開催

教育委員会会議は、原則として毎月1回の予定で開催することとして、令和元年度の開催は13回、付議された議案は合計106に上りました。

以下、令和元年度の開催状況の詳細を報告します。

○令和元年度教育委員会会議の開催状況

回数	期日	案件
第1回	平成31年4月3日(水)	2件
第2回	令和元年5月22日(水)	23件
第3回	令和元年6月21日(金)	4件
第4回	令和元年7月24日(水)	7件
第5回	令和元年8月13日(火)	6件
第6回	令和元年9月18日(水)	13件
第7回	令和元年10月7日(月)	2件
第8回	令和元年11月14日(木)	4件
第9回	令和元年12月18日(水)	6件
第10回	令和2年1月17日(金)	5件
第11回	令和2年2月5日(水)	13件
第12回	令和2年3月5日(木)	12件
第13回	令和2年3月27日(金)	9件
合計		106件

ア 議案について

教育委員会の権限に属する事務の執行は、「海津市教育委員会教育長事務委任規則^{※1}」第2に掲げるものを除き、その権限を教育長に委任すると定められていますが、一方で、同規則第3条は委任された事務についても重要かつ異例の事態が生じたときは教育委員会の決定に委ねるとしており、実際には重要事項の多くは教育委員会の会議の場で決定され、令和元年度に付議された議案は全て会議規則に従い適切に処理されました。

また、議事の終了後には事務局各課から事業の実績、進捗状況及び計画等について報告又は説明を行い、今日的な教育課題への対応等、共通の認識を持ちつつ理解を深めることと致しました。

海津市教育委員会教育長事務委任規則 (抜粋) ※1

(事務委任)

第2条 教育委員会は、次に掲げる事項を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

- (1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 1件1,000万円を超える教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (4) 県費負担教職員の懲戒及び任免その他の進退について内申すること。
- (5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (6) 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと。
- (7) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の任免その他の人事に関すること。
- (8) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の懲戒に関すること。
- (9) 1件1,000万円以上の工事の計画を策定すること。
- (10) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと。
- (11) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を市長に申し出ること。
- (12) 法律若しくは、これに基づく政令又は条例に基づき置かれている附属機関の委員又は委員を委嘱すること。
- (13) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (14) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 公文書の公開の決定に関すること。
- (16) 個人情報の開示、請求及び削除の決定に関すること。
- (17) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定による点検及び評価に関すること。

イ 議事について

簡易な事務手続き等の案件を除き、条例や規則の改正或いは事業計画の承認等、重要事項の審議は、問題意識を共有して事業効果の高い結果が得られるよう、事務局に詳細な説明を求め、活発な議論が展開されました。

また、事務局は、資料の提示や詳細な説明等、より多くの情報提供に努め、メリハリのあつる会議の運営に努めました。

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議以外にも研修や学校訪問等の実施或いは関連する教育団体との懇談などに参加しました。

①教育委員の研修状況

事業名	期 日	場 所	内 容
市外視察研修	令和元年11月14日(木)	六華苑・海蔵寺・ 九華公園	社会教育分野等の施設を視察

②教育委員の学校等訪問

教育委員会会議の開催に合わせて、令和元年度においては市内の小・中学校等を訪問し、子どもたちの学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、様々な視点で、その学校の良さや、抱えている課題などを把握することに努めました。

	期 日	訪問先等
5月	22日(水)	吉里小学校
	29日(水)	今尾小学校
6月	3日(月)	高須小学校
	6日(木)	下多度小学校
	13日(月)	東江小学校
	20日(木)	石津小学校
	28日(金)	城南中学校
7月	2日(火)	高須認定こども園
	5日(金)	大江小学校
9月	18日(水)	今尾認定こども園
	26日(木)	日新中学校
10月	9日(水)	城山小学校
	30日(水)	西江小学校研究発表会
11月	15日(金)	石津認定こども園
	21日(木)	平田中学校研究発表会
	27日(水)	海西小学校研究発表会

③総合教育会議への出席

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から「海津市総合教育会議」を設置しました。会議は市長と教育委員会で構成され、互いが十分な意思疎通を図り教育課題を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために市長が招集するもので、以下のとおり開催され出席しました。

回数	期日	場所	案件
第1回	令和元年9月18日(水)	海津市役所 東館 4-2会議室	3件
第2回	令和2年2月 5日(水)	海津市役所 東館 4-2会議室	2件

④教育委員の関係行事等への出席

	期日	主要行事等	場所
4月	3日(水)	小中学校教職員「着任式」	文化センター
	8日(月)	小中学校「入学式」	各小中学校
	9日(火)	認定こども園「入園式」	各認定こども園
5月	25日(土)	運動会	高須小学校
	30日(木)	スポーツフェスタ	平田中学校
9月	12日(木)	体育大会	日新・城南中学校
	14日(土)	運動会	東江・大江・西江小学校
	21日(土)	運動会	吉里・今尾小学校
	24日(火)	運動会	海西小学校
	28日(土)	運動会	石津・城山・下多度小学校
1月	24日(金)	教育研究大会	文化センター
3月	6日(金)	卒業式	各中学校
	25日(水)	卒業式	各小学校
	26日(木)	小中学校教職員「離任式」中止 認定こども園「卒園式」	文化センター 各認定こども園

⑤広報活動

定期的に行う教育委員会会議をはじめとして、その主な活動は、海津市ホームページで公開しました。

今後もより一層、市民の皆様のご理解とご協力を得るため、広報紙やホームページ等、既存のメディアの活用方法を工夫する必要があると考えています。

Ⅲ 教育委員会の施策 点検・評価

(1) 教育振興基本計画の基本理念

本市は、平成 29 年(2017 年)3 月にまちづくりの基本的な方向を示す「第 2 次総合計画」を策定しました。本市の優れた自然環境の中で、安心して子育てができ、働き、生活ができるまちとなるように、目指すべき将来像として「水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津」を掲げております。その中で、教育施策の柱として「個性と創造性を培うところ豊かなまちづくり」を進めています。

一方、教育の一層の振興を図っていくためには、今後の本市の教育を見据えた基本的な方向を明確にするとともに、その実現に向けて、どのような教育施策を、どのように進めていくかを明らかにしていく必要があります。

そのため、海津市教育振興基本計画の基本理念を引き続き「いのちをつなぐ教育」として継承し、市民が心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育を目指しています。

【基本理念】

「いのち」をつなぐ教育

心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育

(2) 基本的観点

世代をつなぐ 『世代がつながり 生き方を育む』

- ①「生きる力」の基礎を育み、自立できる力をつける。
- ②「生きる力」を育み、豊かな人間性を身につける。
- ③生きがいと共生を地域の中での学習活動を通して目指す。
- ④多様なニーズを要する子どもたちに学習支援の充実を目指す。

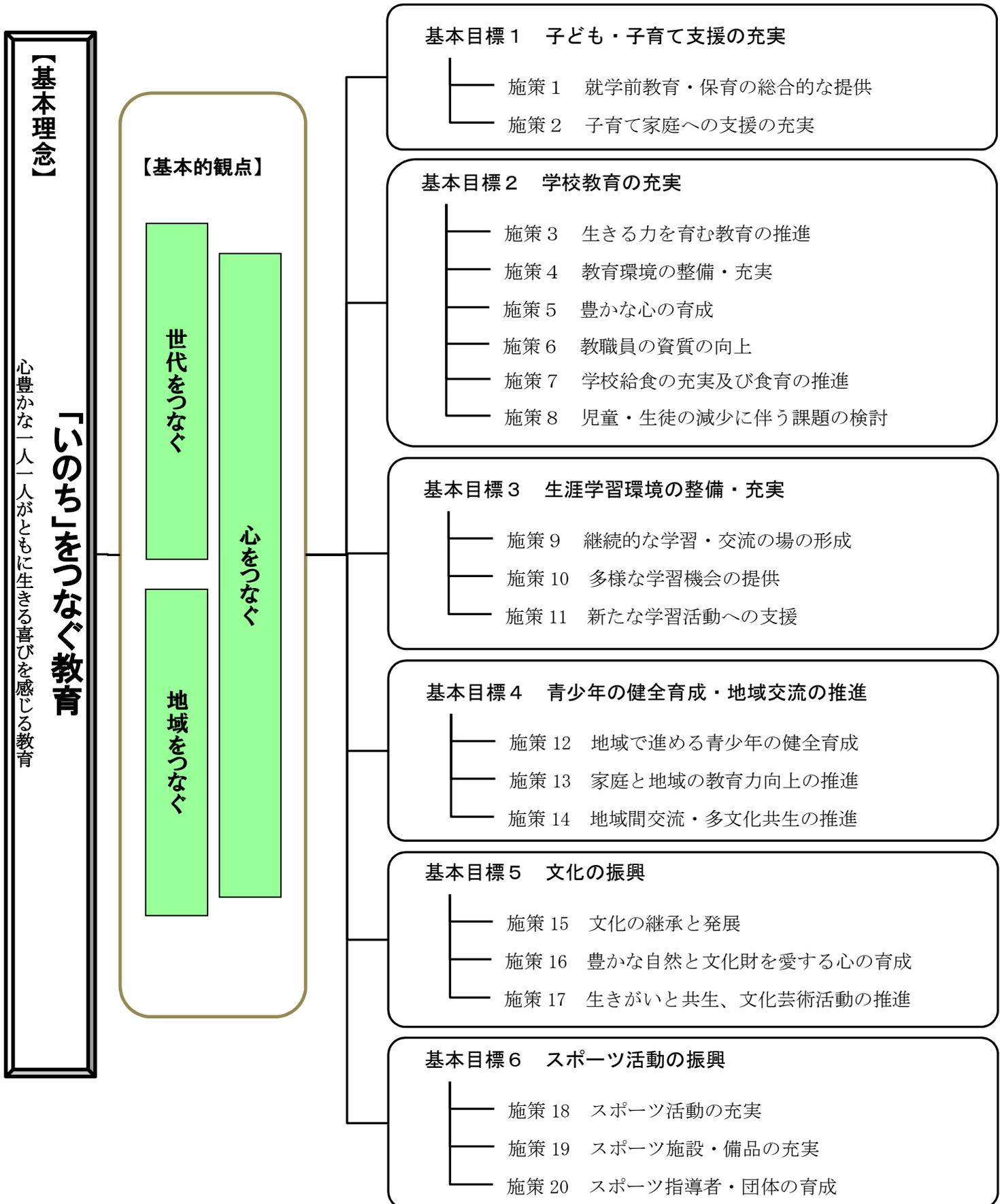
地域をつなぐ 『地域がつながり 生きる喜びを感じる』

- ①家庭の教育力を高めるための学習機会や情報提供を充実させる。
- ②地域がつながり、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を進める。
- ③地域に根ざし、市民のつながりを生み出すスポーツ・レクリエーション活動の活性化を図る。
- ④歴史上や姉妹都市等、関わりのある市町とのつながり、交流を行い、地域づくりを進める。

心をつなぐ 『心がつながり 愛情と思いやりに溢れる人を創る』

- ①心のふれあいを大切に、温かい人間関係をつくる。
- ②海津の文化を愛し、継承・発展を進め、郷土を愛する心を育む。

(3) 計画の体系



(4) 内部進捗評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」		
【基本目標の施策】	担当課	
基本施策	進捗評価	内部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実		
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供	こども課	
① 認定こども園における幼児教育の推進	A	○
② 小学校との連携		○
③ 配慮が必要な子どもへの支援		○
④ 就学前教育・保育施設の整備		○
⑤ 保育教諭の資質向上		○
【施策2】 子育て家庭への支援の充実	こども課	
① 多様な子育て支援サービスの充実	A	○
② 相談体制の充実		○
③ 情報提供の充実		○
「基本目標2」 学校教育の充実		
【施策3】 生きる力を育む教育の推進	学校教育課	
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	A	○
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実		○
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実		○
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実		○
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実		○
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実		○
⑦ 外国語活動の充実		○
⑧ キャリア教育の推進		○
⑨ 郷土学習の推進		○
【施策4】 教育環境の整備・充実	教育総務課・学校教育課	
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	A	○
② 教育環境における情報機器設備の充実		◎
③ 安全な通学路の確保		○
【施策5】 豊かな心の育成	学校教育課	
① 道徳教育の充実	A	○
② 多様な体験活動の推進		○
③ 人権同和教育の推進		○
【施策6】 教職員の資質の向上	学校教育課	
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	A	○
② 教職員研修の充実		○
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修		○
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進		○
⑤ 子どもと向き合う時間の確保		○
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進	教育総務課(給食センター)	
① 地域全体で取組む食育の推進	A	◎
② 学校給食の充実		○
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底		○
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備		○
⑤ 学校における事務負担の軽減		△
⑥ 給食の提供における緊急対応		○
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討	教育総務課	
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	A	◎
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実		
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成	社会教育課	
① 生涯学習ニーズの把握	A	○
② 学習情報の収集・整備		○
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化		△

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」

【基本目標の施策】		担当課	
基本施策		進捗評価	内部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実			
【施策10】 多様な学習機会の提供		社会教育課	
① 生涯学習活動と指導者の育成	A	○	
② 生涯学習の意識啓発		○	
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実		○	
【施策11】 新たな学習活動への支援		社会教育課	
① 学習活動を支援する人材の活用	A	○	
② 高齢者のもつ技能の伝承		○	
③ 学習機会の充実		○	
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進			
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成		社会教育課	
① 「こども健全育成指針」の推進	A	○	
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援		○	
③ 組織的な活動の充実		○	
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上		○	
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進		社会教育課	
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進	A	○	
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実		○	
③ 地域と連携した活動の充実		○	
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進		社会教育課	
① 交流教育の充実	A	○	
② 多文化共生の推進		○	
「基本目標5」 文化の振興			
【施策15】 文化の継承と発展		社会教育課	
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	A	○	
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究		○	
③ 文化資源の活用		○	
④ 文化財指定基準の運用		○	
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		社会教育課	
① 文化財の情報発信と周知	A	○	
② 自然・歴史資源の発見と活用		○	
③ 歴史民俗資料館運営の充実		○	
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		社会教育課	
① 市民文化活動への支援	A	○	
② 文化や芸術に親しむ機会の提供		×	
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励		◎	
④ 多様な文化芸術活動の支援		○	
「基本目標6」 スポーツ活動の振興			
【施策18】 スポーツ活動の充実		スポーツ課	
① 子どものスポーツ活動の推進	A	○	
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進		○	
③ 市民参加型スポーツ活動の推進		○	
④ スポーツ観戦機会の創出		○	
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実		スポーツ課	
① 体育施設の充実	A	○	
② スポーツ備品の充実		○	
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成		スポーツ課	
① スポーツ団体の育成	A	○	
② 指導者の育成と確保及び活用		○	
③ 競技スポーツ活動の支援		○	

(5) 施策の総合点検評価

担当課

こども課

基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	1 就学前教育・保育の総合的な提供		
施策方針	子どもたちの「生きる力」の基礎を育て、心身の発達を促します。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	交流活動や研修などを実施し、小学校や関係機関との情報の共有・連携など支援体制の強化や保育教諭のスキルアップを図ることができました。今後、少子化に伴い、市内12の認定こども園の今後の在り方について、適正配置や民営化などについて検討を進めていく必要があります。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
特定教育・保育施設 延べ利用者数	1,050人	890人	800人
待機児童数	0人	0人	0人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①認定こども園における幼児教育の推進

取組目標	子どもがのびのびと活動できる環境設定とふさわしい基本的な生活習慣、規範意識、道徳性が身につくよう指導計画や指導方法の充実を図ります。また、自然体験、生活体験、社会体験の学習機会の導入に努めます。	
年度計画	公立認定こども園では、指導主事訪問の実施や県主催の研修会や園内研を通じて、指導計画や指導方法を学びます。また、園生活においてさまざまな体験を導入するよう努めます。	内部評価
実績成果	公立は幼保連携型認定こども園のため、市教委訪問や指導主事訪問による指導や県総合教育センター主催の研修会・園内研修を通じて、乳幼児の指導方法を学び、幼児教育・保育の質の向上を図ることができました。また、お茶会、梅狩り、園外保育や高齢者との交流など、さまざまな体験を導入することができました。	○
課題	指導・研修の内容は、園内研修の場を活用し情報共有、意見交換を行っていますが、すべての保育教諭が参加できる時間の確保が課題です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②小学校との連携強化

取組目標	幼保小連携協議会などを通じて、園児と児童の交流や教職員と保育教諭の交流を実施し、相互に子どもの発達や学びに対する理解を深め連携強化を図ります。また特別に配慮を要する子どもについては、関係諸機関と情報を共有し、途切れのない支援を繋げます。	
年度計画	各小学校に設置された幼保小連携協議会を通じて、園児と児童・教職員と保育教諭の交流を実施し、一層の相互理解を深め連携を図ります。また、特別に配慮を要する子どもについては、関係機関と連携して適切な支援に繋げます。	内部評価
★ 実績成果	園児と児童の交流活動を年5回実施し、小学校への円滑な接続を図ることができました。教職員による保育参観を実施するなど、就学に向けて園児の情報共有を図りました。交流活動の中で、就学した園児の成長を見ることができたのは、とても良い機会でした。	○

課題	園児と小学生との交流は実施されていますが、職員同士の交流は、時間の確保に難しさがあります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③配慮が必要な子どもへの支援

取組目標	市発達支援センターが中心となり、巡回相談を通じて障がいなどの早期発見、早期支援に努めます。また、障がいのある子を受け入れるように、保育教諭などを加配する療育支援体制強化事業を促進します。	
年度計画	市発達支援センター主催の巡回相談（年2回）や自主研修会（年8回）を通じて、障がいなどの早期発見や適切な支援について情報を共有し、指導方法を学びます。障がいのある子を受け入れるよう療育支援体制強化事業を活用し、体制を整えます。	内部評価
実績成果	巡回相談（年2回）や自主研修会（年8回）を実施し、関係機関と連携を図り、障がいなどの早期発見や適切な支援について情報を共有し、適切な指導を行いました。	○
課題	療育支援体制強化事業を活用し体制を整備しましたが、専任保育士を配置することができないなど、保育士不足が課題となっています。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④就学前教育・保育施設の整備

取組目標	人口減少に対応した市内全域における就学前施設の適正配置の検討を進めます。また、子どもが安全で安心して生活でき、災害発生時にも一時避難ができる安全な施設や設備の環境整備に努めます。	
年度計画	人口減少に対応して、公立認定こども園の適正配置に関する方針について検討します。また、各園ごとに洪水時、または、土砂災害時における避難確保計画を作成し、災害時に一時避難ができるよう施設の環境整備に努めます。	内部評価
実績成果	未就学児の地域ごとの人数を勘案し、各園ごとにヒアリングを実施し、市子ども・子育て支援事業計画に沿った定員の設定を行いました。また、水防法及び土砂災害防止法に基づいた避難確保計画を作成し、利用園児や職員等が有事の際において円滑かつ迅速な対応が図れるよう努めることができました。	○
課題	少子化に鑑み、公立認定こども園の統廃合も視野に入れ、適正配置に関する具体的な方針を早期に打ち出す必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤保育教諭の資質向上

取組目標	就学前の子どもが同一水準で質の高い教育・保育を受けられるように、海津市幼児教育・保育研究会での研究・研修を進めます。また、認定こども園での教育・保育内容の充実を目指し、市の保育協会などによる各種研修や交流機会を充実し、保育教諭などの資質向上を図ります。	
年度計画	毎年テーマを決めて、市幼児教育・保育研究会を年5回開催し、研究・研修を進めます。また、市保育協会による研修会に参加し、公立・私立の保育教諭の資質向上を図ります。	内部評価
★ 実績成果	「人と関わる力」をテーマに市内全園の保育教諭と小学校教諭（代表3校）が公開保育や公開授業を通じて研究・研修会（年5回）を実施しました。また、市保育協会主催の研修（5回）を実施し、公立・私立の保育教諭のスキルアップを図ることができました。	○
課題	保育教諭不足の中、研修の時間を定期的に確保することが困難となっています。小学校教諭も同様に公開保育の時は、午前中4限分の授業時間を割くことになるため、研修時間の確保が難しい状況です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

こども課

基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	2 子育て家庭への支援の充実		
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	子育て支援施策は、海津市子ども・子育て支援事業計画に沿って実施できています。今後は、ニーズの変化への柔軟な対応や、妊娠期から子育て期に渡る包括的な支援体制の提供に努めて行きます。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数	17,838人	13,842人	15,000人
留守家庭児童教室利用者数	360人	381人	360人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①多様な子育て支援サービスの充実

取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備します。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努めます。	
★年度計画	市民アンケート調査を踏まえ、令和2年度から5年間を計画期間とする「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援を総合的に推進していきます。	内部評価
★実績成果	令和2年度から5年間を計画期間とする「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、各年度における地域子ども・子育て支援事業を必要とする人数などの見込みと確保策を算出しました。共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるよう低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業や留守家庭児童教室事業など、多様な子育て支援サービスを実施することができました。	○
課題	「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」に掲げる子育て支援施策の環境は整備されていますが、少子化の影響で数値目標が達成できない事業もあるため、事業の見直しの検討が必要となります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



高須認定こども園(すこやか園舎)



今尾認定こども園

②相談体制の充実

取組目標	地域子育て支援拠点事業を提供し、子育てに不安や悩みをもっている親に対する相談・援助の機能を充実します。また、市民が積極的に子育て支援に関わることを促進し、地域子育て機能の強化を図るとともに、子育てを支援する人材の育成に努めます。	
年度計画	地域の身近な場所で、子育て相談や仲間づくりができる、市内10か所の地域子育て支援拠点事業を継続して実施します。	内部評価
実績成果	未就園児とその保護者に対して、親子の交流する場の提供、育児相談、子育て情報の提供や子育て講習会を実施し、3,456人の参加人数がありました。また、地域の身近な場所で子育て中の「親」と「子」が孤立することがないように支援することができました。	○
課題	幼児教育・保育の無償化により、3歳児以上の保育料が無償となり経済的なゆとりが生まれ、入園する園児の低年齢化が進んでいるものの、少子化の影響もあり、地域の子育て支援センターを利用する対象者も減少しています。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③情報提供の充実

取組目標	「海津市子育て支援ガイド」を定期的に作成し、子育てに携わる市民や転入者に配布し、子育て支援サービスの利用を促進します。また、本市での子育てに関する情報を発信するホームページ「海津市子育て支援サイト」の充実に努めます。	
年度計画	官民協働事業として「海津市子育て支援ガイド」を作成し、各園や子育て支援センター等で配布し、子育て支援サービスの利用を促進します。また、「海津市子育てサイト（キッズコミュ）」やメール配信サービスにより、最新の子育て情報を発信します。	内部評価
実績成果	令和元年12月に、官民協働事業として「海津市子育て支援ガイド」を作成し、在園児・転入者・子育て支援センター等で配布しました。また、「海津市子育て支援サイト（子育てキッズコミュ）」を利用して子育て情報や園行事の様子等を発信しました。	○
課題	「海津市子育て支援ガイド」を官民協働で定期的に作成していく予定でしたが、見直し作業の工程や作成手順の再検討が必要となっています。市ホームページ(以下「市HP」という。)のリニューアルにより、「海津市子育て支援サイト（キッズコミュ）」から、新たな市HPを活用して子育て情報を定期的に発信していく方法が課題です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



石津認定こども園



子育て支援センターかいづ

施策の総合点検評価

担当課	学校教育課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	3 生きる力を育む教育の推進		
施策方針	子どもたちが確かな学力を身につけることで「生きる力」を育み、豊かな人間性を育てていきます。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	子どもたちに確かな学力をつけ「生きる力」を育むために各学校において、指導や取組の充実が図られています。校長の「学校経営案」に基づいて、思考力・判断力・表現力を育てる授業が行われるように、デジタル教科書の活用や外国語教育のための人材確保などを進めることができました。今後は、一人一台端末の有効活用が進むように学校を支援するなど、学校教育の充実をさらに推進していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80%	85.3%	100%

学習状況調査結果より(対象:小6、中3)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①「軸」を明確にした学校経営の推進

取組目標	学校の特色を活かし、目指す子どもの姿をもとに目標を掲げ、それを具現化に向けた「軸」を明確にした学校経営を行います。	
★年度計画	校長が「軸」を明確にした学校経営を行います。また、市教委訪問、生徒指導訪問などの機会を通して達成状況を見届け支援をします。	内部評価
★実績成果	各学校で校長が示す「軸」をもとに学校運営ができました。全ての小中学校に、市教委訪問と生徒指導訪問をそれぞれ1回ずつ行いました。その訪問では、目指す子どもの姿を達成するための、教頭、教務主任、生徒指導主事の取組について説明を聞き、助言を行いました。	○
課題	地域の特色、児童数など学校の特色をさらに生かした学校経営を、校長のリーダーシップのもとで行っていきます。引き続き、学校訪問の機会に各学校の達成状況を見届ける必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実

取組目標	学習のねらいを明確にし、「生きる力」を一人一人に対し育成していくための指導の工夫と充実を図ります。	
年度計画	学習のねらいを明確にした、指導計画に基づいた教育を行います。また、各種指導計画の作成状況を確認します	内部評価
実績成果	各学校で教育計画を作成し、その計画に基づいて学習のねらいを明確にした授業を行うことができました。各種全体計画・指導計画についても、全ての小中学校で作成したものをまとめることができました。	○

課題	新型コロナウイルス感染症による臨時休業で、3月が1か月間臨時休業日となり、計画した学習内容が年度内に終わることができませんでした。学び残しを確実に引き継ぎ次年度で必ずやりきるよう各学校に指導し、見届ける必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実

取組目標	子どもたちに、生きて働く知識・技能を身につけるために、だれもがわかる授業を展開していきます。また、間違いやすい学習内容の確実な習得を目指すため繰り返し学習を行います。そのためにコンピュータの活用をはじめ実態に応じた個別学習の充実を図るなどして知識・技能の習得に努めます。	
年度計画	教師用デジタル教科書を活用し、誰もがわかる授業を展開します。小学校においても教科担任制を取り入れたたり、少人数指導を行ったりして知識・技能の習得に努めます。	内部評価
実績成果	デジタル教科書と大型モニターを活用し、外国語の授業ではほぼ毎時間、理科・社会・国語・算数でもデジタル教科書を使った授業を多く行いました。それにより、視覚的にも分かる授業を仕組むことができました。全ての小学校で教科担任制を実施しました、また、小学校の算数、中学校の数学・英語で少人数指導を実施し、教師の専門性を生かした授業や個に応じた授業を行うことができました。	○
課題	令和2年度には全普通教室に大型モニターを設置する予定です。今後は大型モニターやデジタル教科書等の活用による誰もがわかるような授業を行えるよう技術の習得に努める必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実

取組目標	国語をはじめ各教科などにおいて、記録、要約、説明及び論述などの言語活動を取り入れ、言語の力を高めるための学習環境の充実を目指します。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレットや電子黒板などを活用し、様々な授業形態の工夫などの授業改善に努めます。	
年度計画	研究授業を行い、思考力・判断力・表現力などを育成をめざします。タブレットや電子黒板などを活用し、様々な授業形態の工夫などの授業改善に努めます。	内部評価
実績成果	全ての学校で、思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫を含む研究内容で校内研究が行われました。研究会を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方を各学校で研修できました。また、西江小、海西小、平田中で研究発表会を行い、教職員で研究成果を共有できました。	○
課題	主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から本実施されます。実践を積み重ねながら、学校全体でICT機器などを活用した授業改善に努めていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学びに向かう力を高める取組の充実

取組目標	独自の教材や学習環境を積極的に活用することで楽しい授業づくりを進めます。また、校外学習や体験活動の機会を増やすことや、専門性の高い外部講師を招くなど、子どもたちの学習に対する興味や関心を高めるように努めます。	
年度計画	全小学校で、ふるさとの魅力を見つけることができるような校外学習を実施します。中学校ではどの子も活用できるように1クラス分のタブレットを導入します。	内部評価
実績成果	全ての小学校で、市内の校外学習を年間30回程度実施しています。内容は自然に触れたり施設で学んだりする体験活動が多いです。地域のボランティア講師を招いての授業も多くの学校で行われました。全ての中学校でタブレットを活用した授業を各教科で行いました。総合的な学習の時間での調べ学習、社会科での資料提示、数学科での問題提示などに活用できました。	○
課題	小学校の担任は、市外の出身者が多いため、地域のことを知る人材をボランティアで確保することは重要です。令和2年度には、一人1台タブレット端末が全児童生徒に導入が予定されています。子どもたちの興味関心を引き出せるように、タブレット端末の活用方法について教員研修の充実を図る必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実

取組目標	特別な支援を必要とする子どもたちと可能な限り、すべての子どもがともに十分な教育を受けられるように多様で柔軟な仕組みを整備します。また、子どもたちが安心して教育を受けられる魅力ある学校づくりを推進するとともに、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に努めます。	
年度計画	不登校傾向の児童生徒と学校をつなぐフレンドリールームを開設します。また、学校との連絡を密にします。 日本語指導の必要な児童生徒や保護者に対応できるように翻訳機を配付します。	内部評価
実績成果	フレンドリールームを開設し、3名の児童生徒が利用しました。児童生徒がフレンドリールームで学習したり、個に応じた活動をしたりできるように、学校と連携を密にしました。 日本語指導の必要な児童生徒が5名おり、在籍校すべてに翻訳機を支給して指導に活用しました。	○
課題	児童生徒の居場所づくり、絆づくりの取組をさらに充実させます。 日本語指導を要する児童生徒が年々増加しており、翻訳機の活用と共に日本語指導を担当する教職員の配置をさらに充実させる必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑦外国語活動の充実

取組目標	ALT（外国語指導助手）や小学校外国語活動インストラクターを配置して、外国語科や外国語活動の授業における子どものコミュニケーション能力（身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力）の向上に努めます。	
年度計画	中学校には、各1人ずつのALTを配置し、コミュニケーション能力を高めます。また、小学校外国語活動インストラクターの研修を充実させ授業の充実を図ります。	内部評価
実績成果	ALTを中学校では毎週配置し、小学校では隔週で配置して、外国語でのコミュニケーション能力を高める指導を行いました。特に小学校の担任だけでは、十分な指導が難しい発音面や会話場面などをALTの先生が補うことができました。 令和元年度から外国語インストラクターを1名増やし、5名配置し、研修を2回実施しました。指導方法の交流、国立教育政策研究所調査官の講話聴講、先進校授業参観などを通して研修しました。	○
課題	小学校3年生以上の外国語・外国語活動にインストラクターを配置して、授業の充実を図ります。一人のインストラクターの持ち時間を考えると、担任が中心となって授業をすすめることができるよう必要に応じて担任への支援をする必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

ALTの先生と英語の学習をしています！

★名前 Louies Marie Pana（ルイズ・マリー・パナ）

★出身地 フィリピン（現在は三重県）

★プロフィール

16歳のときから、お父さんの仕事の関係で、フィリピンと日本を 行き来していたそうです。8月に自動車運転免許をとり、車もまだ、買ったばかりです。持ち前の若さでアグレッシブな授業を行い、生徒 たちも楽しく学習しています。子どもたちは、「ルー先生」と親しみを込めて呼んでいます。



ALT(外国語指導助手)等

授業の質の向上

- ・学級担任を英語面でサポート
- ・生きた英語の提供
- ・児童のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上



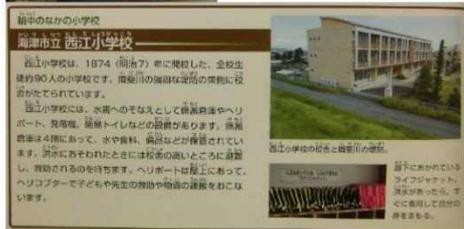
⑧キャリア教育の推進

取組目標	受入事業所となる企業の協力により、子どもたちの望ましい勤労観・職業観や人生観を育てる体験を支援することで、職場体験学習の充実を図ります。	
年度計画	中学校2年生時に1週間の職場体験を全中学校で実施できるように支援します。	内部評価
実績成果	中学2年生267名が79か所の事業所でそれぞれ1週間の職場体験を行いました。商工会の協力で市内事業所約900か所に依頼状を配付し、新規の受け入れ先もできました。体験を通して、生徒たちは働く喜びや仕事のやりがいを学ぶことができました。	○
課題	体験事業所を選んで調整する中で、第1希望の職種で体験できない生徒もいました。生徒の意欲を高めて体験に臨めるような事前指導が必要です。また、生徒数の減少に対して、どのように事業所と連携して職場体験の学習を継続するのが課題であります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑨郷土学習の推進

取組目標	ふるさと海津の歴史や自然に触れ、地域について学ぶことを通して郷土愛を育むための地域教材として「海津市郷土学習の手引き」の活用を目指します。	
年度計画	海津市郷土学習の手引きを活用した授業の推進を図ります。活用した授業の実施率を高めます。	内部評価
実績成果	「海津市郷土学習の手引き小学校1年生～4年生版（身の回りの自然を調べよう）」は、多くの小学校の低学年の生活科や中学年の理科で活用できました。	○
課題	小学校5年生～中学校3年生版（海津の動物と植物）は、活用が難しいです。今後は副読本として活用するなどの工夫をする必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

西江小学校が『低い土地の暮らし』という本で紹介されました。



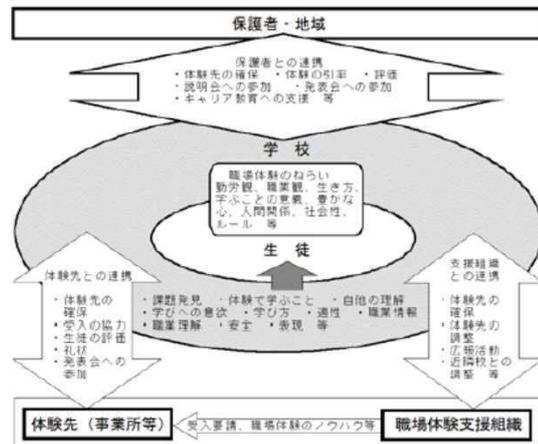
2019年3月発行 わたしたちの暮らしと国土（金の屋社）『低い土地の暮らし』という本で14ページから26ページまでわたって、「高瀬輪中」と題して、岐阜県海津市の紹介されていますが、22ページ下に、「輪中のなかの小学校」として西江小学校も掲載されました。写真では、農薬用の堤防や、一人一着ずつ準備しているライフジャケットも紹介されています。

郷土学習（低い土地の暮らし 西江小学校）

【職場体験のポイント】

- (1)ねらいの設定
- (2)実施計画の立案
- (3)体験先、保護者との連携
- (4)事前指導の充実
- (5)実施期間中の指導体制
- (6)事後指導の充実
- (7)評価

【職場体験の広がり／地域との連携】



職場体験学習 文部科学省資料

施策の総合点検評価

担当課 教育総務課 ・ 学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	4 教育環境の整備・充実		
施策方針	子どもたちの安全・安心を確保し、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け質の高い教育を支える教育環境の整備・充実を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	教育施設では、長寿命化計画を策定し、効率的・効果的な老朽施設の改修により、トータルコストの縮減と予算の平準化を図ることができています。また、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け子どもたちの情報活用能力を育成するため、より一層、教育ICT機器の充実を目指していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進			
取組目標	各施設の劣化状況を把握するため、建築基準法に基づく点検を実施します。そして、今後の児童生徒数の推移を勘案しつつ長寿命化計画を策定し計画的な施設整備を推進します。また、学校施設の非構造部材の耐震化を着実に進め、必要に応じた洋式トイレウォシュレット化の充実を図ります。		
年度計画	学校施設の長寿命化計画策定のため、建築基準法に基づく点検委託を実施する。洋式トイレウォシュレット化に向けての調査研究を進めます。		内部評価
★実績成果	<p>学校施設の長寿命化計画策定は、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保するため、小学校10校、中学校3校の建築基準法に基づく劣化診断を実施し、計画策定をすることができました。</p> <p>学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であり、災害時には地域住民の避難所としても使用される極めて重要な施設であるため、洋式率が低い小学校5校のトイレ改修事業を計画しました。</p>		○
課題	長寿命化型による維持・更新を実施しても、現状の小中学校の規模（13校）を維持するためには、多大な費用が必要となります。現在の財政状況を鑑みると、厳しい状況であるため、維持管理コストの削減を図りつつ、学校数の適正配置などを検討していく必要があります。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



改修前



改修後

②教育環境における情報機器設備の充実

取組目標	子どもたちの発達に段階に応じた情報活用能力の育成に努めます。そして、電子黒板などの活用をはじめとするICT機器を活用した教育や体験活動の充実を図ります。また、ICT機器やデジタル教材の活用に向けた教職員の研究体制や指導体制の充実を図ります。	
★年度計画	全中学校の通信網の設備強化とタブレットの導入を推進します。計画的にパソコン室のPCの更新を進めます。	内部評価
★実績成果	日新中学校と平田中学校にそれぞれ1学級分(41台)のタブレット端末の整備を完了し、中学校3校すべてに1学級分のタブレット端末を整備することができました。また、城南、平田中学校のパソコン室のPCについて、OSをwindows7からwindows8.1への更新作業が完了しました。	◎
課題	令和2年度にはGIGAスクール構想のもと全児童生徒に一人一台タブレット端末を整備するとともに、全ての小中学校で校内Wi-Fi環境を整備します。学校でのICT機器の活用を推進するために、端末導入後も教職員への研修やサポートが必要です。研究や指導体制を計画し実施する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③安全な通学路の確保

取組目標	交通事故の抑止や登下校防犯の推進を図るとともに、児童生徒の安全で安心な通学路の確保に向けた環境整備を関係機関と協力しながら推進します。	
年度計画	児童生徒の安全で安心な通学路の確保のため、「海津市通学路安全推進会議」を開催し対策を実施します。また、養老鉄道と連携し「かいづっち養老鉄道応援パスポート事業」を進めます。	内部評価
実績成果	市内の通学路について児童生徒がより安心して登下校が行えるよう、通学道路の安全対策を推進するため、2回の会議を開催し、19箇所の対策を講ずる計画を公表しました。 通学路の安全支援の一環として、養老鉄道(株)と連携し特に城南中学校へ通学する児童に対し、年間、5,000円の負担額にて乗車できるパスポート事業を継続して実施しました。	○
課題	通学路の安全確保については、子どもたちが通学する道路において、横断歩道など交通規制がありながら交通マナーの低下による危険性が指摘されています。また、対策箇所も多く存在するため、限られた予算の中で効果的な対策を講ずる必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



学校ICT環境整備後イメージ(文部科学省資料)



通学路安全推進会議

施策の総合点検評価

担当課	学校教育課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	5 豊かな心の育成		
施策方針	心のふれあいを大切にしたい温かい人間関係を通して、子どもたちの豊かな心を育みます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	道徳教育、体験的活動、人権同和教育が各学校で確実に実践されています。日常生活の中で、多様な見方・考え方を認めながら他者を尊重することを繰り返し指導しています。地域の特色を生かした体験活動や交流活動も積極的に行うことができました。新学習指導要領に対応しながら、今後も豊かな心を育てる活動を継続していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①道徳教育の充実			
取組目標	人としてより良く生きる力を育むため、その基盤となる道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う道徳教育を「特別の教科 道徳」をはじめ教育活動全体を通して推進します。そのためにも、保護者や地域との連携を深め、子どもの道徳性を地域社会全体で高める道徳教育を実施します。		
年度計画	「特別の教科 道徳」の授業の充実を図ります。より良く生きる力を育むために自分をみつめる時間を大切にします。		内部評価
実績成果	平成29年度から「3年間の道徳教育推進計画」のもと、自己の生き方について考えを深める指導の充実を図りました。特に児童生徒が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるような道徳授業を目指し取り組みました。日新中校区の学校で授業公開を行い、よりよい授業にしていくための研究会を行いました。		○
課題	新しい学習指導要領のもと、「考える道徳」「議論する道徳」への転換が求められています。多様な考え方、感じ方を出し合い、より自分の考え方、感じ方を明確にできる指導を更に工夫する必要があります。		

道徳教育の抜本的改善・充実

道徳の時間の課題例

- 「道徳の時間」は、各教科等に比べて軽視されがち
- 教科書の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- 発達段階に応じた内容を十分に踏まえず、児童生徒に馴染み深いと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「特別の教科 道徳」(「道徳科」)(※継続を週1時間)として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正

具体的なポイント

- 道徳科に検定教科書を導入
- 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
 - 「徳性の伸長」「相互理解・寛容」「公正・公平・社会正義」「国際理解・国際観照」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小中学校に追加
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- 数値評価ではなく、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、記述による評価を実施

「考え、議論する」道徳科への転換により児童生徒の道徳性を育む

平成27年度から、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組可能

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」を実施

私たちの道徳

活用のための指導資料

文部科学省

道徳教育の充実(文部科学省資料)

②多様な体験活動の推進

取組目標	各学校の実態に応じ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて、自然体験、社会体験、ボランティア体験、異学年や高齢者との交流活動などの体験的・実践的活動を推進し、子どもの豊かな感性や情操を育みます。	
年度計画	各学校の実情に応じて、体験的学習を充実させます。	内部評価
実績成果	小学校では野菜の収穫や稲刈りなどの農業体験、高齢者や幼稚園児との交流体験が全学校で行われました。中学校では、「地域の人々から学ぶ」体験や学校林での活動など、それぞれの学校の実情に応じて、体験的学習を推進することができました。	○
課題	教科の学習内容や授業時数が増えた中で、体験活動の時間を確保していくために、カリキュラムマネジメントの視点から計画を見直ししていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③人権同和教育の推進

取組目標	人権尊重と人間平等の基本理念を確立するとともに、人と人との間に存する偏見を解消する指導を行い、不合理な差別をなくし、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる教育を推進するように努めます。また、家庭及び地域社会において人権意識の高揚を図ります。	
年度計画	人権について考える集会をどの学校でも実施します。また、人権の取り組みに対する報告集を作成します。	内部評価
実績成果	各学校で「ひびきあい活動」に取り組み、周りの人を大切にする教育を推進しました。その取組について発表したり、全校で人権について考えたりする「ひびきあいの日」を全学校で実施し、報告集としてまとめました。	○
課題	多様化する社会の中で、LGBTの問題やインターネットによる人権侵害など、今日的な人権課題についても取り組んでいく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

祖父母学級「ふれあい活動」

11月9日に祖父母学級「ふれあい活動」を行い、多くの祖父母の方、保護者の方にご来校いただきました。



1年 すごろく



2年 紙飛行機



3年 押し花



4年 レクリエーション



5年 郡上踊り



6年 茶道



6年 華道



6年 墨絵

多様な体験活動(城山小学校 ふれあい活動)



人権同和教育(岐阜県資料)

施策の総合点検評価

担当課

学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	6 教職員の資質の向上		
施策方針	個々の教職員の力量と組織での対応力の向上を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	校内、校外でさまざまな教職員研修を行い、資質向上を図ることができました。特に、市教育研究所主催研修では、キャリアステージに応じた研修のほか、教科指導や生徒指導、郷土学習など、学校での指導に生かせる教職員研修を行いました。今後は勤務の適正化との両立を図りながら、ニーズにあった研修を企画し、効率よく実施していく必要があります。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①「海津市教育のスタンダード」の活用

取組目標	だれもが実践でき、だれにも力をつけることができる指導理念である「海津市教育のスタンダード」の理解と実践を図ります。また、学級経営力、授業力を高めるために、小中学校教員が互いの教育課程や指導内容のつながりを把握し、義務教育9年間で児童生徒を育てます。	
★年度計画	授業における各校のスタンダードを作成し、スタンダードをもとにした授業を実践します。	内部評価
実績成果	各学校で授業のスタンダードが作成され、どの学級でもどの担任でも共通して実践することを明らかにし、学校としての統一感のある授業づくりが行われました。教務主任会などでは、各学校のスタンダードや取組内容を交流し、自分たちの学校の指導に生かすことができました。	○
課題	どの学校でも若手教員の占める割合が増えてきているため、一層スタンダードを工夫・活用して、教員の指導力をさらに高めていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②教職員研修の充実

取組目標	「海津市教育研究所」を核として、教職員の経験や時代の変化に応じた研修の充実を図ります。また、教員としての専門性や今日的な教育課題への対応力を高めるため、大学などの関係機関との連携を強化します。	
★年度計画	市教育研究所が主催する研修を充実させます。教職員の指導力を向上させるためのオンデマンド研修を充実させます。	内部評価
実績成果	市教育研究所が主催した「中堅幹部研修」「若手人材養成研修」「バディ研修(2年目研修)」では、キャリアステージに応じた研修を行いました。また、全教職員を対象として希望制の夏期講座(9講座)を企画運営しました。各学校からの要望に応じ、教職員の指導力を向上させるためのオンデマンド研修を46回行いました。	○
課題	デジタル教科書の活用やプログラミング学習、ICT教育に関わる研修を充実させていく必要があります。今後も、より学校現場のニーズに応えた研修内容を考えていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③特別支援教育に関わる教職員の研修

取組目標	特別支援コーディネーターなどを中心として、園・学校の全職員が計画的な研修を行う事を通して、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、就学前から園や特別支援学校との連携も図りつつ、組織的な動きを支援します。	
年度計画	教育支援委員会を開催し、情報交流を図ります。 園・学校ごとに計画的な研修を行い、実践内容を報告します。	内部評価
実績成果	7月と10月に教育支援委員会を開催し、適正な就学指導について情報交流を実施しました。年間を通して、各園・学校で特別支援教育についての研修を計画的に行い、全職員が特別支援教育についての理解を深めました。	○
課題	研修によって理解を深めましたが、それを実際に一人一人の子どもに合わせて適切な支援を行えるよう、確実な実践力につなげていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④研究授業や公開授業、交流授業などの促進

取組目標	市内小中学校での公開授業の参加や、就学前と小学校、小学校と中学校との交流授業を促進することや、中一高との連携を図るなど、教育の資質向上に努めます。	
年度計画	毎月の研究授業の一覧を作成し、それを活用した授業交流を促進します。 園小の交流を充実させます。	内部評価
★ 実績成果	各学校で計画されている研究授業については、市教育研究所で一覧にまとめて各学校に配付し、他の学校の研究授業にも積極的に参加するよう働きかけました。園小連携協議会を2回実施し、意見交流を行うことによって、園小の交流活動を充実させることができました。	○
課題	他校との研究授業に参加したい思いはあっても、その間の授業の補充に十分対応できないために参加できないことがありました。学校間の授業交流を促進するためには、補充に対応できるような人的配慮等も必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤子どもと向き合う時間の確保

取組目標	教職員の事務負担の軽減は、教職員が授業や授業準備などに集中し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、心身の健康を損なうことがないように、教職員の勤務時間及び内容に関する実態改善に向けた総合的・計画的な取組みを推進します。	
年度計画	休日を含めた時間外勤務時間を正確に把握します。 時間外勤務時間 月80時間以上の職員の心身の健康状態を確認し、働き方改革を進めます。	内部評価
実績成果	勤務時間管理システムによって、全職員の時間外勤務について正確に把握しています。時間外勤務時間が 月80時間を超える職員については、校長が面談を行い、心身の健康状態を確認するとともに、適正な働き方について指導を行いました。	○
課題	働き方改革は確実に進めていますが、月80時間を超える時間外勤務をしている教職員が少数います。今後、さらに勤務の適正化を図るためには、これまでの通例にとらわれない思い切った業務の削減や行事の見直しが必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課	教育総務課（給食センター）
-----	---------------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	7 学校給食の充実及び食育の推進		
施策方針	子どもたちが自ら健やかな体をつくることに関心を持ち、積極的に健康や食生活にかかわる態度を育成します。また、学校給食の公会計事務化の実施や故障などによる緊急時の対応策を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	地元産物を給食に多く取り入れ、多彩な献立により学校給食を充実させることができました。また、小中学校と認定こども園において、教職員と連携し、「献立表」、「食の話」や「食育だより」などにより食育指導に積極的に取組ました。 今後も衛生管理を徹底し、安全・安心な給食を提供するとともに、学校・地域・家庭とつながり、給食内容を充実させ、食育推進を図っていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①地域全体で取組む食育の推進

取組目標	学校年間指導計画に基づき、学校・園、家庭、地域が連携して、次代を担う子どもの望ましい食習慣の形成に努めます。また、学校における食育を推進するために、学校給食の教育的意義を見直すとともに、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実を図ります。	内部評価
年度計画	学校・園、家庭、地域が連携して、子どもたちの望ましい食習慣の形成に努めます。また、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実を図ります。	
★ 実績成果	地域の生産者を学校に招待し、子どもが主体となる「ふれあい給食会」を実施しました。生産にかかわる苦労や工夫などを知ることで地域愛や関心を高めるとともに、生産者の方も学校給食の取組に理解を深めることで生産への意欲につながってもらうことができました。 こども課や健康課の参加を得て、「食育でつなぐ、かいづの子どもたち」の研究会をもち、各世代における食育推進の実践や課題等について交流し共通理解を図りました。 小中学校においては、「食に関する年間指導計画」に基づき、給食主任や学級担任等と連携して学級活動や教科等の時間に授業を実施し、給食の時間にも全体指導や個別指導を実施し、合わせて年間150日ほど学校に出向き、指導を実施しました。また、学校行事(体育祭や宿泊研修等)や、長期休業中に、社会情勢や子どもの実態を踏まえ、子どもたちや保護者に向けた「食育だより」を年5回発行しました。	◎
課題	給食センターが小中学生の食育推進の拠点となり、市全体の食育推進に取組む必要があります。	



海津市学校給食センター(海津市平田町地内)

②学校給食の充実

取組目標	郷土料理や外国料理だけでなく、時代の要請に即した献立を取り入れ、栄養バランスの取れた魅力ある学校給食の提供を目指します。また、地場産物の活用を図り食育の生きた教材となる学校給食の充実を図ります。	
年度計画	日本各地の郷土料理や外国料理のほか、地場産物の活用を積極的に取り入れ、学校給食の充実を図ります。	内部評価
実績成果	JAと地域産物の学校給食への使用拡充に向けて協議検討した結果、海津市以外のしみの地域の農作物の活用が可能となり、地場産物の使用割合が前年度より4%程増加しました。また、毎月のたより等で子どもたちや保護者に情報提供を行い、市内や近隣市町への地域理解を高めることにつなげました。 市内の産物（加工食品含む）については、給食への活用方法を工夫し、給食献立に定期的に取り入れるとともに、毎月の献立表に海津市食材を使った献立レシピ掲載などにより、子どもたちや保護者にもその食材が定着し、家庭でも手軽に使ってもらえるよう試みました。 市と姉妹提携を結ぶ鹿児島県の郷土料理や地場産物を使い、教科等につながるよう給食に取り入れ、子どもたちの「ふるさと学習」につなげました。	○
課題	子どもたちが、海津市の産物について興味・関心をもち、郷土を愛する心を持続してもつことができるよう、関係機関との連携協働を図る必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学校給食の衛生管理と事故防止の徹底

取組目標	衛生管理や事故防止の徹底を図るため、給食施設や調理機器の適正な管理にあたるとともに、さらに給食調理員や学校給食職員の徹底した衛生管理のうえで安全で安心な給食を提供します。	
年度計画	衛生管理や事故防止の徹底を図り、給食施設や調理機器の適正な管理にあたり、給食調理員や学校給食職員の徹底した衛生管理のうえで安全で安心な給食を提供します。	内部評価
実績成果	「学校給食衛生管理基準」に基づき、令和2年2月に、「海津市学校給食センター衛生管理マニュアル」を策定しました。このマニュアルにより、問題箇所を確認し、改善を行うことができ、給食調理員の衛生管理の意識の向上につなげることができました。	○
課題	委託業者を含めた全職員に、「海津市学校給食センター衛生管理マニュアル」の内容を周知し、衛生管理や事故防止の徹底を図る必要があります。安全な給食が提供されるよう学校、認定こども園との連携強化が必要です。また、食品への異物混入を防止するため、納入業者・製造業者へ指導強化に努める必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④学校給食センターの効率的な運用・整備

取組目標	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続します。また、安全で安心な学校給食の提供に努めているものの、機械の稼働保証期間経過後の故障や経年劣化による施設修理費の増加が見込まれる中、さらに運用費の抑制に努めます。	
年度計画	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続する。また、機械の故障などによる施設修理費の増加が見込まれる中、水道光熱費などの削減に努め、運用費の抑制に努めます。	内部評価
実績成果	平成31年4月1日から5年間の調理・配送等委託業務を委託しました。委託業者には、電気・ガス・水道水の適切な使用とその削減に努めてもらい、給食設備や調理機械の故障や不具合など、早めの報告・連絡により早期対応を実施することができました。	○
課題	給食設備や調理機械も10年以上が経ち、老朽化による更新時期を迎えており、計画的に更新を行う必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学校における事務負担の軽減

取組目標	教職員の働き方改革として、教職員の事務負担の軽減に向けた、業務の役割分担・適正化を進めるため給食費の公会計事務化の調査・研究を進めます。	
年度計画	教職員の働き方改革として、教職員の事務負担の軽減に向けた、業務の役割分担・適正化を進めるため給食費の公会計事務化の準備を進めます。	内部評価
実績成果	給食費の徴収事務については、学校では事務職員が、公立認定こども園では園長が行っています。 徴収事務の公会計化に向けて、他市の状況を把握しました。	△
課題	公会計化導入には、人員の確保とシステム導入に係る財源の確保が必要です。また、導入した他市町の状況から、滞納者の増加が見込まれます。給食費の段階的な無償化についても、検討する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥給食の提供における緊急対応

取組目標	給食設備や調理機械などの故障による迅速な復旧体制や、故障時における学校給食の提供にむけた緊急時の対応策について調査・研究を進めます。	
年度計画	給食設備や調理機械などの故障による迅速な復旧体制や、故障時における学校給食の提供にむけた緊急時の対応策について調査・研究を進めます。	内部評価
実績成果	給食設備や調理機械などの故障は無く、給食を予定通り提供できました。 委託業者と、機械の故障など早期の連絡や学校の休校連絡など連携を図ることができました。 緊急時に対応するため、代替品（救急カレー、コーンポタージュスープ）を人数分購入しました。	○
課題	給食が提供できない場合は、備蓄の代替品（救急カレー）などで対応することになりますが、備蓄量に限りがあり、日数がかかる場合は弁当持参を考える必要があります。 給食設備や調理機械の保守点検等により、機器の状況を常に把握する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



食育の授業



生徒による配膳(平田中)



給食時間(平田中)

施策の総合点検評価

担当課	教育総務課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	8 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		
施策方針	今後、少子化が進むことが予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点から、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に検討していきます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	広大な市域に多数の小規模校を有する本市の実情に鑑み、より適正な学校規模として目指すべき目標を示すとともに、それを実現するための適正配置の基本的な考え方や計画を推進するため特に考慮すべき事項を整理していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①「海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会」の設置と協議

取組目標	児童生徒の減少が進む中で、学習環境の充実、指導の充実、教育水準の維持向上を図る観点から学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に協議します。	内部評価
★年度計画	学校の小規模化に伴う課題を整理し、検討委員会において学校の適正規模等の検討を進めます。	
★実績成果	今後を見据えた学校教育の在り方、特に小学校の方向性を検討する時期にあることから、検討委員会を設置し、アンケートの実施など議論を深めてきました。学校の適正規模等の基準を定めるとともに、これに基づいて本市の小規模校の対応に関する基本的な考え方や方向性などを取りまとめることができました。	
課題	学校の規模や配置の適正化を進めるに当たっては、児童生徒の保護者や就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、学校を支えている地域住民の理解や協力を求めるなど、「地域と共にある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論が必要です。	



小中学校適正規模等に関する検討委員会



H28城南中学校統合の記事(岐阜新聞より)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	9 継続的な学習・交流の場の形成		
施策方針	生涯にわたって、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「何からでも」主体的に幅広い生涯学習の機会を享受できる学習環境の整備を図り、一人一人の「生きがいづくり」や「地域を支える人づくり」など心豊かな生活を送ることができるように学習環境の充実に努めます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	生涯学習講座等の開設については受講希望者の状況に応じた計画が実施できています。今後もコロナ感染予防対策を講じながら継続的に進めていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
生涯学習講座 受講者数	1,311人	801人	1,800人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①生涯学習ニーズの把握

取組目標	市民の生涯学習ニーズを的確に把握して、講座の開設や既存講座の見直しなどを行い、目的に応じた学習内容の充実を図ります。	内部評価 ○
★年度計画	生涯学習の意義や社会教育について主体的に学ぶ意欲を喚起するため市HPや講座、イベントなどを通して啓発を行います。	
★実績成果	受講希望が定員の半数に満たない講座を廃止するなどし、講座開設の見直しをしました。「Let's English (初級者向け)」講座は、定員20名のところ4名の希望しかなかったため開講しませんでした。しかし、開講した講座については、受講者がやりがいをもって活動し、充実したものとなっています。特に悠々楽習講座は、受講者が当番を組んで毎回の内容を企画し、楽しみながら運営することができました。	
課題	地域で活動されている方が講師となり知識・技能を受講者へ還元できるような講座を開催する場合、まず指導者を確保する必要があります。各講座や教室の参加者に対するアンケート等を実施し、より一層市民ニーズの把握に努める必要があります。	



②学習情報の収集・整備

取組目標	各種講座や教室など、市民が学習の機会に関する情報を得る手段としては、市の広報紙やインターネット、ロコミなどが考えられます。また、最新の情報を提供するために学習情報を収集し、メディアなどを活用して、連携が図れるように努めます。	
年度計画	市報、チラシの既存周知方法だけでなく、メール配信・ケーブルTV等を通じた開催の告知を図ります。	内部評価
実績成果	ケーブルTVで各種講座の様子を放送してもらうなど、講座内容等を市民に広める機会を増やすことができました。	○
課題	各種講座の内容に合わせた、より効果的なタイミングでの告知対策を図る必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③社会教育施設などの整備とネットワーク化

取組目標	公民館や図書館などの社会教育施設が、地域コミュニティ形成の拠点としての役割を果たし、だれもが気軽に立ち寄り、情報交換や交流ができる場所となるように改修などを計画的に進めます。また、学習機会の確保や公平性を考慮しながら、施設の統廃合やネットワーク化の検討を進めます。	
年度計画	クラブ・サークル等主体的に活動されている団体の活動情報等を提供します。また老朽化施設の統廃合の検討を順次行います。	内部評価
実績成果	社会教育施設の適切な管理については、限られた予算の中で適切な維持管理ができています。特に南濃図書館を廃止し、図書館の統合化による予算縮減を図ることができました。	△
課題	ネットワーク化については、各施設や設備の老朽化による補修や改修が必要であり、一部では設備メーカーの部品生産が終了しており、設備自体の更新のために多額の費用を要する必要があります。そのため、ネットワーク化の構築は、難しく長期的な検討が必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市生涯学習講座(2019年度版)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	10 多様な学習機会の提供		
施策方針	生きがいをもち、文化的で心豊かな生活を送ることができるように、地域の中での学習活動を通して共生を目指します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	図書の購入については、市民のリクエストに対して可能な限り対応することで、利用者の著しい減少対策を図っています。また、生涯学習講座においても、受講者におおむね好評であるため、今後も受講者の希望に沿うような講座運営をしていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
市立図書館貸出数	265,257冊	225,154冊	275,000冊

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①生涯学習活動と指導者の育成

取組目標	市民一人一人が生涯学習を通じて、多様な学習活動ができるように、講座の充実や芸術・文化に触れる機会の提供、指導者の発掘・育成に努めます。	
年度計画	クラブ・サークル団体の一覧を冊子に掲載し、活動内容を周知します。	内部評価
実績成果	各種講座の中には、長年継続して開催されている講座もあり講師の方にとっても充実感につながっています。	○
課題	地域で活動されている方が講師となり知識・技能を受講者へ還元できるような講座を開催したいが、指導者を確保する必要があります。	



②生涯学習の意識啓発

取組目標	生涯学習に対する市民意識の向上を図り、啓発に努めるとともに、ニーズに応じた幅広い生涯学習の場を増やします。	
★ 年度計画	講座やイベントの参加者アンケートなどを活用し、ニーズの把握を行い講座の企画に反映させます。	内部評価
★ 実績成果	各社会教育施設において、生涯学習講座を開設し、学級長や役員さん、講師の方と内容を相談しながら、受講者の希望に沿う講座を運営することができました。	○
課題	開催日時や場所についてもできるだけ多くの人の都合が合うように設定および運営していく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実

取組目標	多様で高度化する学習ニーズに応えるため、図書館などの学習機関を一層充実させ、利用者へのサービス向上と専門性の高い学習機会の提供に努めます。	
年度計画	図書館の蔵書の充実を図り、利用者のニーズに配慮した施設運営を進めます。また、歴史講演会などを実施して市民の学習機会とします。	内部評価
★ 実績成果	海津市図書館協議会を開催（年2回）し、図書館のあり方について提言を受けました。また、令和元年度の図書購入は、4,492冊。図書購入費は、8,972千円です。年間貸出冊数は、225,154冊であり、毎年度減少傾向にあります。ボランティア団体等の協力により、読み聞かせ会やブックスタート事業を実施しました。	○
★ 課題	利用者のニーズに適した図書資料の充実を図りながらボランティア団体と連携した図書館活動を継続する必要があります。今後も今日的な課題や時節に応じた企画展を工夫、開催していきます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津図書館(中央館)



海津図書館(中央館)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	11 新たな学習活動への支援		
施策方針	地域性や地域文化を大切にしながら、生きがいづくり・地域づくりにつながるまちづくりを目指し、市民力を活かした多様な学習活動の支援に努めます。また、地域の人々が互いに助け合える魅力溢れる生涯学習の推進を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	講座等に参加した子どもたちは生き生きと活動に参加しており、講師の方々や講座に関わっていただける地域の方にとっても充実感につながっています。今後もコロナ感染予防対策を講じながら継続していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①学習活動を支援する人材の活用

取組目標	地域の活動やボランティア活動を通じて、退職者や学習習得者がこれまで培ってきた技術やノウハウを市民に還元できるように環境づくりと人材の確保に努めます。	内部評価 ○
年度計画	講座の開催の際にボランティア講師制度を周知し講師の登録を推進します。	
実績成果	ボランティア講師制度の募集チラシを発行し、各公共施設にチラシを設置することで人材確保に努めました。(新規登録1名)また、ボランティア登録者以外にも講座の内容に応じて直接依頼し、その都度引き受けていただくことができます。	
課題	市報や市ホームページ(以下「市HP」という。)等でも募集要項を掲載し、さらに広く周知していきます。	



②高齢者のもつ技能の伝承

取組目標	地域の言い伝えや風習などの伝承を通して、子どもと高齢者が触れ合う機会を提供し、多世代にわたる市民交流を推進します。	
年度計画	地域で活動されている団体の方を講師として講座を開催します。	内部評価
実績成果	将棋教室、竹炭工作、お菓子作り等、子どもたちが地域の方に教えてもらいながら生き生きと活動できる講座を開催することができました。	○
課題	募集チラシを各施設に設置し多くの人の目に触れるようにし、講師登録数をさらに増やしていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学習機会の充実

取組目標	市民の学習ニーズに対応した学習機会を広く提供するとともに、市民協働や関係する係との連携・協力による学びの場を充実させます。	
★年度計画	市民活動推進課と連携し市の職員が講師となって市政に関する講座を行う出前講座の一覧を「生涯学習講座のご案内」冊子に掲載し、市民に周知を行います。	内部評価
実績成果	冊子「生涯学習のご案内」に出前講座一覧を掲載し、市報4月号に折り込みました。また、悠々楽習講座等で出前講座を依頼し、有意義な学習ができました。	○
課題	市の出前講座について、市HPなどにも掲載したり、実績を市報に載せたりし、更なる周知を図り、誰でも気軽に活用できるようにしていきます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



子ども将棋教室

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	12 地域で進める青少年の健全育成		
施策方針	世代・地域・心のつながりを強化し、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	自主的な活動となっており、どの活動も参加者には充実したものと なっています。今後、子ども会活動の望ましい在り方について状況を踏まえた対策が急務となっています。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
成人の集い 参加率	78.7%	76.9%	85.0%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①「こども健全育成指針」の推進

取組目標	海津市青少年問題協議会において策定している「海津市こども健全育成指針」を市民に周知し、市民参加で推進します。	
年度計画	海津市青少年育成市民大会での活動発表等で周知を図り、啓発に努めます。	内部評価
実績成果	「あったかい絆宣言」にかかわる活動発表を通して、子どもの現状や子ども自ら行う活動を考え、健全に生活していくことができるよう方向づけをすることができました。	○
課題	青少年育成団体と連携を図り、地域の方々とともに子どもを育てる体制づくりが必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②子どもの生活習慣の確立に向けた支援

取組目標	子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズム向上につながる活動を支援します。その中でも情報モラル教育の一環として、『あったかい絆宣言』を周知し、学校やスクールサミットなどを通して情報機器を適切に利用できるように取組みます。	
年度計画	スクールサミットで児童生徒ができる取組を考え、実践していきます。また、小中学校において情報モラルワークショップを行い、児童生徒や保護者に啓発していきます。	内部評価
★ 実績成果	情報機器の使い方について、スクールサミットで各学校の代表者で話し合い、子どもたち自ら行う取組を考え、各校で実践することができました。小学校2校、中学校1校で情報モラルワークショップを行い、情報機器の良さや問題点を考えることを通して、使い方について親子で約束を決めることができました。	○

課題	今後ますます情報機器が普及し、機器を使用する年齢も低年齢化が進み、幼児や低学年の取組方法を考えるとともに、保護者に対しての啓発を図っていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③組織的な活動の充実

取組目標	地域のスクールボランティアやこども110番などによる見守り活動や広報啓発などを行い、環境浄化活動の充実を図ります。また、家庭・学校・地域社会・警察・各種団体との連携を図り、協力体制を強化していきます。さらに安全・安心な地域ネットワークを築き、地域の見守り力を高めていきます。	
年度計画	青少年育成推進委員会との連携や学校警察連絡協議会を通して、状況把握や環境改善を図ります。	内部評価
実績成果	地域の方が毎日登下校の見守りを行っていただいたり、登下校時には警察による巡回も行ってくださっています。青少年育成推進員を中心に通学路点検等も行い、危険箇所を改善する動きをつくることができました。地域全体で見守り活動ができています。	○
課題	こども110番の家の周知を進め、一般の方にも見守っていただける体制を一層徹底し、子どもがさらに安心して生活できる地域社会にする必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上

取組目標	青少年の主体性や社会性を育むために、新成人が自ら企画する「成人の集い」を開催していきます。また、異年齢交流の場となっている子ども会活動においても、自主的に活動ができるように家庭・学校・地域の連携を図ります。	
年度計画	成人の集い実行委員会を中心に会を企画し、新成人の運営で成人の集いを開催していきます。子ども会活動においても、諸研修で学んだことを広め、子どもが楽しみながら主体的に活動できるように努めます。	内部評価
実績成果	成人の集い実行委員を中心に、新成人のニーズに合わせた企画運営ができました。 子ども会のインリーダー研修を「絵本であそぼ」と共同で行い、楽しみながら様々な体験をすることができました。	○
課題	少子化による子ども会活動が難しくなっている中、役員や保護者の負担の軽減と行事の精選を図っていく必要があります。 市子ども会育成連絡協議会加盟単位子ども会が減少する中、子ども会活動の意義を伝え、地域の子どもの健全育成の在り方を検討する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	13 家庭と地域の教育力向上の推進		
施策方針	「あたりまえのことができる家庭教育支援」をテーマに基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭づくりを目指します。また、子どもが健やかに育ち、生きる力を身につけ育む場の基盤づくりのために、家庭と地域の教育力を高める支援を充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	どの活動もおおむね好評であり、充実したものとなっています。子どもが健やかに育つことができるよう、支援を継続していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
単位子ども会 会員数	4,346人	1,104人	1,500人
地域のおじさん・おばさん運動 登録者数	306人	306人	350人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進

取組目標	基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭を営む支援をします。また、市民活動団体の協力を得て、公民館事業、地域活動など親子が一緒に参加できる場を提供し、家族が触れ合い、円滑な親子関係の構築と思いやりのある家庭づくりに取り組みます。	
年度計画	子育て応援隊講座を通じ、親と子がコミュニケーションをとりながら学べる機会を提供します。	内部評価 ○
実績成果	子どもだけでなく親も興味をもって参加できるものになっており、講座で学んだことを家庭でも実践することができました。	
課題	家族の触れ合いができる内容を更に考え継続していく必要があります。	



②子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実

取組目標	多くの親が集まる機会を活かし、子育てや教育に対する家庭の役割、親としての力を高める講座の開催などを行います。また、様々な状況にある保護者のために学習機会を提供し、専門諸機関と連携した相談体制を充実させ、子育て不安の軽減を図ります。	
★ 年度計画	次年度小学校に入学する保護者を対象とした就学時健診時に集まる機会を利用し「子育て親育ち講座」の開催をします。文化センター内に「にこにこ子育て相談室」を設け家庭教育支援員を配置し子育てについての相談業務を行います。	内部評価
実績成果	「子育て親育ち講座」を就学時健診時に開催することで、ほぼ100%に近い出席が得られ、親としての心がけ等を改めて学ぶ機会にできました。にこにこ子育て相談室への相談件数も増えており、支援員の努力により、子育てへの不安や悩みを軽減する一助になっています。	○
課題	兄弟姉妹を持つ親は子育て親育ち講座に数回参加されるので、講師や内容を毎年変えていく必要があります。(体験型、ワークショップ等)	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③地域と連携した活動の充実

取組目標	子どもが安心して暮らせる環境づくり、地域の活性化と教育力向上のために、学校・家庭と地域との連携をより一層深め、子どもたちの活動や学習支援などに地域住民が関わりをもてるように取組みます。	
★ 年度計画	各小学校区の地区社会福祉協議会にて実施されている三世代交流事業の活動支援を行います。	内部評価
実績成果	補助金を交付し、社会福祉協議会を中心に三世代交流等を企画運営し、イモの栽培や餅つきなどの活動を通して、地域ぐるみでの多世代交流ができました。	○
課題	今後も、多世代交流を充実させ、子どもたちの活動や成長を地域で支える体制づくりをしていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

海津市にこにこ子育て支援事業のテーマ

あたりまえのことができる家庭教育支援

あたり 大切な子育ての心を守り、まね 子育ての心を守り、まね

- にこにこ子育て相談チーム
- にこにこ子育て応援隊
- にこにこ子育て地区チーム
- 家庭教育学級(工夫・改善)
- 子育て・親育ち講座
- 家庭教育講演会(オープン講座)

にこにこ子育て情報提供

海津市にこにこ子育て支援事業

にこにこ子育て応援隊講座

子育て中の親さん方に少しでもお力になることができれば、市民活動団体の方がそれぞれの得意分野を生かして開催される予定です。

ほっとスペース・そよ風

なのほな講座

わ・わ・わ広場

わ・わ・わキッズ

みさんの参加をお待ちしております。

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	14 地域間交流・多文化共生の推進		
施策方針	市民が幅広い視野をもてるように、歴史的つながりのある姉妹都市及び友好都市と交流を深め、国際感覚豊かな人材育成のために異文化理解の教育に取組みます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	参加者は、歴史・文化に対する理解が深まり、満足できる事業になっています。保護者への負担をできるだけ軽減できるように検討していきます。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
霧島市生徒交流事業参加率 (応募者数/定員)	100%	100%	100%
酒田市児童交流事業参加率 (応募者数/定員)	92.0%	83.3%	100%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①交流教育の充実

取組目標	国内における姉妹都市・友好都市との地域間交流について、市民の関心と参加を高める情報発信に努め、交流活動を通じて、相互の文化や歴史・習慣などを学び、両市の友好親善を推進します。さらに交流事業に参加しやすいような環境を整備し、幅広い視野をもつ人材育成に努めます。	
★年度計画	互いの地域性が理解できるような見学・活動場所を選定し、互いに親睦を深め、楽しみながら学び合う交流ができるように努めます。	内部評価
★実績成果	小・中・高校生が、姉妹都市、友好都市を実際に訪問することにより、歴史・文化に対する理解を深め、また見聞を広めることで自ら成長することができました。	○
課題	生徒がホームステイをするため、男女比等の調整が必要である。また、ホームステイの受け入れが難しくなりつつあり、宿泊施設での合同合宿も検討する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②多文化共生の推進

取組目標	多文化共生の地域づくりを推し進める必要性が増しているなか、様々な国の異なる文化や価値観の理解を深め、豊かな国際性を習得する教育に取組みます。	
年度計画	異国の文化や習慣をゲームやレクレーションを通じてALT (外国人講師) とコミュニケーションをとりながら理解を深める「イングリッシュ・デイ」を開催します。また講師の出身地にちなんだ食の講座 (異国食科) を計画しその国の文化や習慣の理解を深めます。	内部評価
実績成果	「イングリッシュ・デイ」には8月と2月合わせて72名と多くの児童が参加、異国食料は12月に開催し9名が参加しました。どちらも充実した活動となりました。	○
課題	参加者が多いときの講師の増員が必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	15 文化の継承と発展		
施策方針	先人が残した貴重な文化遺産を後世に引き継ぐために、保存及び保護、調査研究を推進し、文化財の歴史的価値を高めるとともに、郷土の文化資源として活用することにより、地域の活性化を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	文化財の保存や活用について検討し、できることから計画的に進めています。特に、重要文化財の早川家住宅及び天然記念物の津屋川水系清水池ハリヨ生息地の保存活用については、重点的に進めていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
文化財保存管理件数	8件(100%)	13件	9件(100%)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成

取組目標	所有者や管理者と協力して、その種別に応じた適切な保護管理体制を確立し、文化財の整備及び活用計画の作成を進めます。また、後継者育成への支援をするなど、文化財の周知に努め、保存・保護を図ります。	
★年度計画	新たに重要文化財に指定された早川家住宅の保存管理及び活用方法を検討していきます。また、指定文化財の案内看板等の設置や修繕を進め、文化財の周知に努めていきます。	内部評価
★実績成果	文化財を見学する方の利便性向上のため、庭田貝塚・羽沢貝塚などの指定文化財の案内看板を14か所設置し、文化財指定地における草刈り等の維持管理を実施しました。 早川家住宅保存活用検討委員会の要綱制定や検討委員の選考を行い、保存活用に向けた準備を進めることができました。	○
課題	早川家住宅保存活用検討委員会を早期に開催し、文化財の保存や公開等の活用に向けた具体的な方向性を定めていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究

取組目標	歴史資料などの収集、遺跡の調査・研究を行うとともに、新たな文化財の掘り起こしに努めます。また郷土資料を市民への学習教材などに活用していくための基礎的情報を蓄積していきます。	
年度計画	ハリヨの個体数調査や埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施し、基礎的情報を収集していきます。	内部評価
実績成果	ハリヨの個体数調査を継続して実施し、ハリヨの生息環境状況について把握することができました。(捕獲個体数の結果から、ハリヨの個体数は2009～13年は安定的な個体数であったが、2014～16年にかけて減少し、2016年以降は大きな増減が無いと推測されます。)埋蔵文化財包蔵地における試掘や工事立会を行い、遺跡等の情報を収集することができました。	○

課題	長年にわたり収集してきたデータを基に、ハリヨの生息環境の改善に向けた事業を展開していく必要があります。また、これまで得られたデータを市民に公開するシンポジウムを開催していきます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③文化資源の活用

取組目標	地域資源である文化財の価値を高めることは、地域住民がふるさとに誇りをもつことにつながるため、積極的に情報公開や活用を進めます。また、文化財を活用することで、観光や文化振興など地域の活性化を図ります。	
年度計画	歴史の教育資源を活用した出前講座や企画展を実施して地域の歴史文化の普及を推進し、地域振興に努めます。	内部評価
実績成果	市内小学校の児童や一般の方に対し、古墳や貝塚・早川家住宅などの文化財を説明する出前講座等を8回実施しました。	○
課題	出前講座や企画展を通して歴史資源を積極的に活用するため、市民や学校などに定期的に情報提供していきます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④文化財指定基準の運用

取組目標	海津市文化財保護条例に基づき、保存及び活用のための必要な措置を講じます。また、文化財指定基準に基づき、歴史的・文化的価値のある文化財を掘り起こすなど基準の運用を図ります。	
年度計画	海津市文化財保護条例に基づき、文化財保護事業補助金などの支援を実施します。	内部評価
実績成果	文化財保護事業補助金を交付し、文化財の所有者や管理団体等の支援を実施しました。(5件、1,792千円)	○
課題	文化財の所有者や管理団体からの意見を定期的に伺い、補助金だけでなく、文化財の保護や活用に必要な支援策を検討していく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ハリヨ(市天然記念物)



今尾常栄寺薩摩工事義歿者墓補修事

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	16 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		
施策方針	郷土の歴史や文化財に、誇りと親しみをもつことのできる普及・啓発活動を推進するとともに、市民が地域の文化遺産を知り、守り、伝えることによって、文化財愛護に対する意識高揚を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	新たに国の重要文化財に指定された「早川家住宅」の活用方法などを検討し、できるところから順次進めています。歴史民俗資料館においても概ね来館者の満足を得られたと思われます。 今後も地域の文化遺産を知る機会を積極的に創出し、市民の文化財愛護に対する意識高揚を進めていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
歴史民俗資料館 催事1日あたりの来場者数	235人	200人	250人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①文化財の情報発信と周知

取組目標	文化財マップなど郷土の文化を紹介・案内する資料を充実し、史跡巡りや学習会などを行って、郷土文化を知る機会の拡大を図ります。また、文化財などを案内するボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」との連携強化を図り、観光にもつなげます。	
年度計画	市ホームページ(以下「市HP」という。)に掲載されている文化財の情報を更新し、情報発信に努めていきます。重要文化財に指定された早川家住宅について、パンフレットの整備を進めていきます。	内部評価
実績成果	市HPのリニューアルに併せて、掲載内容を確認し、適宜修正を実施しました。また、国の重要文化材に指定された早川家住宅のパンフレットを作製しました。	○
課題	新たに指定された文化財などの情報が文化財マップに反映されておらず、文化財マップの内容修正やリニューアルをしていく必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



国の重要文化財に指定された早川家住宅

②自然・歴史資源の発見と活用

取組目標	郷土の文化に触れ、自然景観を見て歩き、歴史を学ぶことのできる機会を提供します。また、多様な分野における有識者の活用やメディアへの情報発信によるPRなどに努めます。	
年度計画	歴史講座や体験プログラムなどの学習機会を提供し、文化財資源の活用を図ります。また、市HPやメディアへの情報発信を密にして広域でのPRに努めていきます。	内部評価
実績成果	歴史民俗資料館において、歴史ミニ講座や禹王サミットを開催し、新たな文化財資源の掘り起こしと普及につなげました。	○
課題	市内の文化財資源についてさらに調査を進め、活用を推進するため、情報収集や市民との連携及び情報共有を図る必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③歴史民俗資料館運営の充実

取組目標	入館者が減少傾向にあることを踏まえ、より一層の調査・研究を進めながら企画展などの事業を展開していきます。また、館内リニューアルを検討しながら入館者の増加を目指します。	
年度計画	魅力ある事業を企画して利用者の増加に努めていきます。また、リニューアル検討委員会を開催して施設の充実のための方策を研究していきます。	内部評価
★ 実績成果	市民のニーズを意識した講座（講演会）の開催や、共同企画展を実施しました。また、入館者数は、10,298人で、前年度と比較して1,553人の減少となりました。	○
課題	リピーターを維持しつつ、新たな入館者を増やせるよう、事業内容の工夫と効率的な広報の実施および施設の老朽化対策が必要です。またリニューアルに向けた適切な財政措置ならびに、利用者のニーズや費用対効果を見据えたより具体的はリニューアル計画を立案・推進する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



第7回 全国禹王サミット in海津



海津市歴史民俗資料館

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	見直し・改善
施策	17 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		
施策方針	地域の人々が、郷土の文化を愛し、生きがいを感じられるような文化活動や創作活動を支援します。また、質の高い芸術に触れる機会を提供することで豊かな心を育むとともに、市民参加型による芸術創作活動に取り組める環境づくりをします。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	「ミュージックフェスタ in KAIZU」を開催し、子どもから成人まで多くの市民に出演や来場してもらえました。今後も市民参加型による芸術創作活動として市民創作ミュージカルの本公演を盛り上げていくとともに、市民が質の高い芸術にふれる機会の創出を進めていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
市内の文化団体登録者数	1,557人	1,465人	1,700人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①市民文化活動への支援

取組目標	文化団体が行う活動は、これに参加する人たちが生きがいを見だし、自己表現のできる機会をつくるとともに、文化レベルの向上につなげていくことができます。このため、成果発表をする活躍の場を提供し、活動しやすい環境づくりに努めます。	
年度計画	文化協会をはじめとする文化団体が行う活動に対して、補助金等の支援を行います。文化展を開催し、文化作品を発表する機会の提供を図ります。	内部評価
実績成果	文化協会の活動に対し、適切に補助金交付を行い、アドバイス等の支援を行いました。また、文化展を開催し、市民から作品375点が出展され、多くの方に来場していただきました。 (開催日：令和元年10月25日～27日、来場者：1,452人)	○
課題	文化協会をはじめ文化団体・サークルへの参加者が減少しており、文化事業に関わりやすい環境づくりを支援する検討が必要です。また、文化展の来場者を増やすために、開催方法を検討します。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化や芸術に親しむ機会の提供

取組目標	情緒豊かな心を育み感性を高めるため、幼少期から優れた文化芸術に触れ合う機会を提供します。	
年度計画	子どもから大人まで市民誰もが質の高い文化芸術に触れ合える機会を提供していきます。また、文化庁が実施する「文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演事業)」を小中学校に情報提供し、子どもたちが文化芸術に触れ合う機会を提供していきます。	内部評価
実績成果	過去にはオーケストラのコンサートやプロ劇団のミュージカルなどの質の高い芸術に市民が触れることができる機会を設けてきたが、予算確保することができず、平成29年度をもって事業を中止しており、以後事業を実施することができません。「文化芸術による子供育成総合事業」については、小中学校に情報を提供することができました。	×

課題	行政による芸術文化事業の開催を進めるとともに、市民や市内団体など民間による文化芸術に触れ合う機会の創出の在り方についても考えます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③市民参加型による芸術創作活動の奨励

取組目標	多くの市民がともに創ることの喜びや生きがいを感じられるように、主体的に企画・創作する文化芸術活動を奨励し、推進に努めます。	
★ 年度計画	市民創作ミュージカルのワークショップやプレ公演を通して、市民が文化芸術活動に参加できる機会を提供していきます。	内部評価
★ 実績成果	市民創作ミュージカルを企画し、ワークショップやプレ公演を通じて、市民が文化芸術活動に参加することができました。ワークショップ（6月22日から11月30日まで23回、参加者延べ人数528人）、プレ公演（12月1日、来場者数697人）	◎
課題	市民創作ミュージカルを翌年度も実施予定であり、より多くの市民に参加してもらえるように情報発信に努めます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④多様な文化芸術活動の支援

取組目標	文化芸術活動の活性化と人材育成を図るため、音楽や演劇をはじめとする様々な文化芸術活動を積極的に支援します。	
年度計画	創設3年目を迎えるかいづっち合唱団の活動を市民に広く知ってもらうことで、団員の数を増やすとともに、子どもたちが音楽活動に参加できる環境を継続していきます。	内部評価
実績成果	3年目を迎えたかいづっち合唱団の活動の姿を「ミュージックフェスタ in KAI ZU」や「社会を明るくする運動」において、その歌声やダンスを披露し、多くの市民に活動を知っていただくことができました。かいづっち合唱団団員数（H29：17人、H30：30人、R1：36人各年度末時点）	○
課題	音楽や演劇をはじめとする様々な文化芸術活動に参加できるように合唱団運営を行っていますが、将来的には市民や民間の中で活動を継続できるような体制づくりを検討する必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



市民創作ミュージカル



かいづっち合唱団 & ながら児童合唱団

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	18 スポーツ活動の充実		
施策方針	市民が健康で活力のある生活が送れるように、各々のライフスタイルやライフステージに応じた、参加できるスポーツ活動の機会を提供します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	スポーツやイベントは、天候により参加者数が大きく左右されるため、実施の判断が難しいですが、周知方法の工夫や計画的な進行により計画した事業が概ね実施できました。市報やチラシでのPRや、関係団体との連絡協議等、さらなる機会の提供を行っていきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
体育大会 参加者数	1,143人	943人	1,500人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①子どものスポーツ活動の推進

取組目標	子どもの健全育成のため、スポーツ少年団や学校部活動などスポーツの活動の場となる団体等の活動を支援します。	
★年度計画	スポーツ少年団活動やスポーツの競技力の向上と選手育成の支援及び、若年層からの競技者確保と青少年の健全育成を目的に開催される大会の支援をします。	内部評価
★実績成果	西濃地区の交流大会(19人)・リーダー研修会(4人)への団員の参加や、認定員養成講習会・指導者研修会に指導者を派遣し、指導員の育成支援を行いました。	○
課題	少子化や生活環境の変化などの影響により団員数の減少が見られ、新規の団員の確保が困難な状況にあります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②高齢者や障がい者スポーツ活動の推進

取組目標	室内でも気軽にできるスポーツ教室を開催し、高齢者や障がい者が楽しくスポーツに親しむ機会を提供するよう努めます。	
年度計画	スポーツ推進委員による軽スポーツ教室の開催や、市開催イベント等への協力により、誰もが楽しくスポーツが出来るスポーツ活動の推進に努めます。	内部評価
実績成果	スポーツ推進員(20人)がワンバウンドふらば〜るバレーボール・アキュラシー・ポッチャなど、高齢者や障がい者対象の教室にも活かせるような種目の体験を行いました。 健康課と協力し、各種団体・サークルに出前講座(4回、参加人数60人)を実施し、軽スポーツによる健康維持を呼びかけました。	○

課題	開催する軽スポーツや運動会などの行事は、幅広い世代の市民を対象としておりますが、高齢者や障がい者により多く参加してもらう必要があります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	--	--

③市民参加型スポーツ活動の推進

取組目標	体育協会、スポーツ推進委員と連携して、各種スポーツ大会を開催するなど、地域を核としたスポーツ大会の内容の充実を図り、だれもが気軽に楽しめる市民参加型のスポーツ行事を開催します。	
年度計画	体育協会・スポーツ推進委員との連携により、各種スポーツ大会・軽スポーツ教室等を開催し、スポーツ活動の推進に努めます。	内部評価
実績成果	<p>下多度、城山、石津地区において各地区の役員とともに軽スポーツ大会を開催し、お年寄りから子どもまで約300人の参加、平田地区運動会では、約650人の参加があり、世代を超えた交流ができました。</p> <p>海津市スポーツ推進委員連絡協議会による海津市タスポニー交流大会が開催され、約80人の参加があり、楽しんでもらえました。</p> <p>かいづっちマラソン大会では、368人の参加があり、市体育協会、スポーツ推進委員をはじめ各種団体の協力を得て開催することができ、大勢の市民の参加があり、各競技に興味を持ってもらえました。</p>	○
課題	下多度、城山、石津地区の軽スポーツ大会が参加者の減少などで縮小傾向となっています。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④スポーツ観戦機会の創出

取組目標	「みる」スポーツを通して、さらに市民のスポーツに対する意識高揚を図るため、ボート、カヌー及びトライアスロン競技など本市の特徴的なスポーツ環境を生かし、スポーツ観戦機会を創出し、競技への関心を高めます。	
年度計画	地域の活性化と市民のスポーツ意識向上の啓発を図り、本市の特徴的なスポーツ環境を生かした、長良川サービスセンターで開催される全日本中学選手権競漕大会の開催など、スポーツ観戦機会を創出し競技への関心を高めます。	内部評価
★ 実績成果	<p>昨年度に引き続き、長良川サービスセンターにおいて全日本中学選手権競漕大会を参加者約1,450人の規模で開催し、市民の観戦機会を創出することができました。</p> <p>長良川国際トライアスロン大会への支援を行い、参加者約500人の規模で開催され、競技への関心を高めることができました。</p>	○
課題	市民の競技への関心は高まっておりますが、市民の競技参加にはつながっていません。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



全日本中学選手権競漕大会



レガッタ大会(長良川サービスセンター)

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	19 スポーツ施設・備品の充実		
施策方針	市民が気軽に安全かつ快適にスポーツ活動ができるように、施設の充実を図ります。また、スポーツ備品の充実を図り、貸出しにより市民や団体のスポーツ活動への参加を支援します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	市内のスポーツ施設については、老朽化の修繕や環境改善を予算範囲の中で適宜行っていますが、施設の充実を図るため、整理統合も含めた施設配置の適正化を検討していきます。 廃止した5地区体育館について、体育館施設の取り壊しに向けて地元自治会等と協議を継続していきます。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
スポーツ推進委員の活動回数	37回/年	35回/年	40回/年

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①体育施設の充実

取組目標	社会体育施設の計画的な統廃合を進め、利用者が安全で快適にスポーツを楽しめるように環境づくりを進めるとともに施設の長寿命化とグラウンド・ゴルフ場の拡充を目指します。また、市民が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、教育施設のスポーツ開放を継続的に進めます。	
★ 年度計画	各施設の運営管理及び、施設改修工事・修繕工事等実施、スポーツを楽しめるように環境づくりに努めます。南濃グラウンド・ゴルフ場の拡張工事を実施し、市民が身近な場所でスポーツを楽しめるよう施設の充実に努めます。	内部評価
★ 実績成果	グラウンド・ゴルフ協会から要望があったグラウンド・ゴルフ場の拡張工事を行い、新たに8ホールコースを整備しました。 平田グラウンドの修繕や、各体育施設の照明、スポーツ用器具など、延べ約30か所の修繕を行い、長寿命化を図るとともにスポーツ施設の環境改善を図ることができました。 施設の老朽化ならびに利用者減少のため、地元自治会と協議を進め、5地区体育館を廃止しました。	○
課題	平田体育館の耐震補強、海津グラウンド及び南濃テニスコート等の改修が必要です。 廃止した5地区体育館について、取壊しに向けて地元自治会等と協議を継続していきます。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②スポーツ備品の充実

取組目標	市民や団体のスポーツ活動を支援するため、スポーツ備品の充実を図り、出前講座などを通じてスポーツ備品である貸出品を利用した軽スポーツ教室を開催していきます。	
年度計画	スポーツ活動の支援をするため、スポーツ備品の貸出・充実に努めます。また、出前講座による軽スポーツ教室を開催します。	内部評価
実績成果	南濃南部テニスコート支柱および南濃グラウンド野球得点板を購入し、スポーツ備品の充実を図りました。 スポーツ推進委員との連携により軽スポーツ教室を開催し、延べ1,415人の参加を得ました。	○
課題	スポーツ備品の貸出について、さらなる周知が必要です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課	スポーツ課
-----	-------

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	20 スポーツ指導者・団体の育成		
施策方針	体育協会などの既存のスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。また、スポーツ指導者研修の充実を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	スポーツ推進計画を見直しました。中学部活動・クラブの社会人コーチを確保できるよう、指導者バンクの設立を検討していきます。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R1)	目標値 (R3)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和元年度の重点的な取り組み)

①スポーツ団体の育成

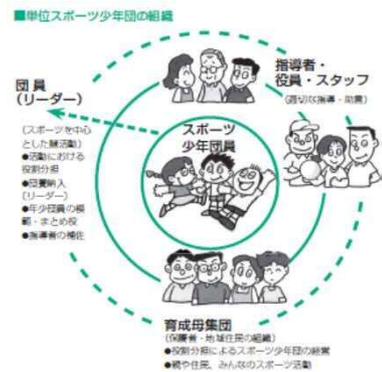
取組目標	体育協会などのスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を継続して支援しつつ、競技団体などの統廃合・法人化を検討し、持続可能な組織への転換を支援します。	
★年度計画	スポーツ活動や各種スポーツの競技力向上と選手育成を行う団体活動を支援します。	内部評価
★実績成果	体育協会に補助を行い、事務指導などの面において支援を行い、クラブ運営の推進を行いました。 2つの地域スポーツクラブに対し、県事業により事務指導などの面において支援を行い、クラブ運営の充実を図ることができました。	○
課題	各団体の活動のみで、横のつながりが弱い状況です。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



南濃スポーツクラブ



単位スポーツ少年団の組織(日本スポーツ協会資料)



②指導者の育成と確保及び活用

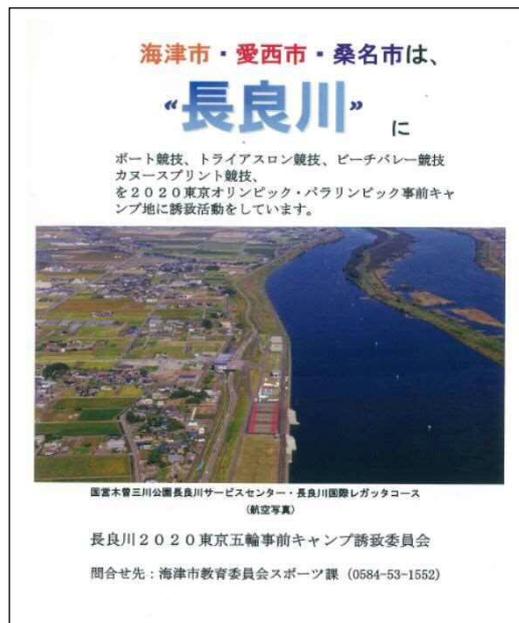
取組目標	スポーツ指導者に対する研修を充実し資質の向上を図り、市民ニーズに合った指導が行われるように指導者間の情報交換や情報共有を進めます。また、教職員の働き方改革の推進に伴い部活動のクラブ化を関係機関と連携し検討します。	
年度計画	スポーツ指導者の研修の情報提供・情報共有を図り、指導者の育成と資質向上に努めます。また、学校部活動のクラブ化の検討を計画的に行います。	内部評価
実績成果	スポーツ少年団認定員養成講習会・指導者研修会に指導者を派遣し、指導員の育成を行いました。	○
課題	スポーツ指導者の確保については、指導者資格が競技により多種多様であり、競技指導者の適正な人材を図るためにも指導者資格の全体像を整理し必要な情報を提示する必要があります。市内には、指導者バンクのような制度がないため、特に、中学生の部活動・クラブの社会人コーチは、適正な人材確保が課題であります。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③競技スポーツ活動の支援

取組目標	本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援します。特に東京2020オリンピック・パラリンピックを重点的に応援します。	
年度計画	東京五輪事前キャンプ誘致を実施します。また、オリンピック選考大会等の現場での応援やパブリックビューイングでの応援を行います。	内部評価
★ 実績成果	4月にポーランドボート連盟、ポーランドカヌー連盟の視察受け入れを行いました。また、本市出身の世界で活躍が期待される五輪候補選手のパブリックビューイングを開催しました。	○
課題	視察を受け入れるも、今のところ具体的な成果はなく、当初想定していたよりも各国の動きが活発化していません。また、コロナ禍により3月に五輪の開催が延期になったことで、動きがさらに停滞しています。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



オリンピック選考(安藤友香選手 海津市出身)



オリンピック事前キャンプ誘致

IV 教育委員会の施策 外部評価

(1)外部評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」	
【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実	
【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供	こども課
① 認定こども園における幼児教育の推進	継続・妥当
② 小学校との連携	
③ 配慮が必要な子どもへの支援	
④ 就学前教育・保育施設の整備	
⑤ 保育教諭の資質向上	
【施策2】 子育て家庭への支援の充実	こども課
① 多様な子育て支援サービスの充実	継続・妥当
② 相談体制の充実	
③ 情報提供の充実	
「基本目標2」 学校教育の充実	
【施策3】 生きる力を育む教育の推進	学校教育課
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	継続・妥当
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実	
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実	
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実	
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実	
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実	
⑦ 外国語活動の充実	
⑧ キャリア教育の推進	
⑨ 郷土学習の推進	
【施策4】 教育環境の整備・充実	教育総務課・学校教育課
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	継続・妥当
② 教育環境における情報機器設備の充実	
③ 安全な通学路の確保	
【施策5】 豊かな心の育成	学校教育課
① 道徳教育の充実	継続・妥当
② 多様な体験活動の推進	
③ 人権同和教育の推進	
【施策6】 教職員の資質の向上	学校教育課
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	継続・妥当
② 教職員研修の充実	
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修	
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進	
⑤ 子どもと向き合う時間の確保	
【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進	教育総務課(給食センター)
① 地域全体で取り組む食育の推進	継続・妥当
② 学校給食の充実	
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底	
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備	
⑤ 学校における事務負担の軽減	
⑥ 給食の提供における緊急対応	
【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討	教育総務課
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	継続・妥当
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成	社会教育課
① 生涯学習ニーズの把握	継続・妥当
② 学習情報の収集・整備	
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化	

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」	
【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策10】 多様な学習機会の提供	社会教育課
① 生涯学習活動と指導者の育成	継続・妥当
② 生涯学習の意識啓発	
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実	
【施策11】 新たな学習活動への支援	社会教育課
① 学習活動を支援する人材の活用	継続・妥当
② 高齢者のもつ技能の伝承	
③ 学習機会の充実	
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進	
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成	社会教育課
① 「こども健全育成指針」の推進	継続・妥当
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援	
③ 組織的な活動の充実	
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上	
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進	社会教育課
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進	継続・妥当
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実	
③ 地域と連携した活動の充実	
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進	社会教育課
① 交流教育の充実	継続・妥当
② 多文化共生の推進	
「基本目標5」 文化の振興	
【施策15】 文化の継承と発展	社会教育課
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	継続・妥当
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究	
③ 文化資源の活用	
④ 文化財指定基準の運用	
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成	社会教育課
① 文化財の情報発信と周知	継続・妥当
② 自然・歴史資源の発見と活用	
③ 歴史民俗資料館運営の充実	
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進	社会教育課
① 市民文化活動への支援	見直し・改善
② 文化や芸術に親しむ機会の提供	
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励	
④ 多様な文化芸術活動の支援	
「基本目標6」 スポーツ活動の振興	
【施策18】 スポーツ活動の充実	スポーツ課
① 子どものスポーツ活動の推進	継続・妥当
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進	
③ 市民参加型スポーツ活動の推進	
④ スポーツ観戦機会の創出	
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実	スポーツ課
① 体育施設の充実	継続・妥当
② スポーツ備品の充実	
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成	スポーツ課
① スポーツ団体の育成	継続・妥当
② 指導者の育成と確保及び活用	
③ 競技スポーツ活動の支援	

(2) 外部評価（学識経験者による意見）

岐阜大学教授

小林 一貴

海津市教育委員会点検評価について

「令和元年度教育委員会の事務に関する点検評価報告書」に基づき、基本目標とそれぞれの施策について意見を述べさせていただきます。

基本目標1の中の施策1について、未就学児の教育が重要なテーマとなる中、子供同士の交流など丁寧な取り組みがなされており、今後とも教諭の負担とならない取り組みのあり方を検討していただければと思います。施策2については、子育て支援サイトや官民協働ガイド作成など関係者が具体的な方向性を共有できるような積極的な取り組みが進められています。

基本目標2の中の施策3に関しては、多様な学習の形態と機会が設けられており、引き続き充実した取り組みが求められます。ICT機器については幅広い学習につながる活用を期待します。施策4については、教育施設の改修、教育機器の整備、通学路の環境整備など重要な取り組みが行われています。施策5については、さまざまな活動を通じた適切な取り組みが行われています。施策6に関しては、幅広い観点から授業改善の取り組みが行われています。「子どもと向き合う時間の確保」のために業務の見直しを引き続きお願いしたいと思います。施策7では、「食」を通して地域へ世界へと視野を広げ、「食」の重要性を体感し身に付ける取り組みがなされています。施策8では、課題を正面から見据えて適切な対応がとられています。

基本目標3における施策9では、受講者数に課題はあるとされていますが、市民が集いながら身近で幅広い学習の機会が保障されるように引き続き努めていただければと思います。施策10について、図書館の運営は幅広く丁寧な協議を通じて行われています。教育、文化、産業など多様な市民の目線をさらに組み入れていただければと思います。施策11では、児童を対象とした学習機会を積極的に設けています。指導者の協力や育成、研修を含めて、教える側と学ぶ側の双方にとっての生涯学習が展開されていくことを期待いたします。

基本目標4において、施策12では情報機器の扱いなど青少年の健全育成に直結する課題に対して、地域レベルの継続的な取り組みがなされています。子ども会活動の負担とならないような工夫もできるとよいと考えます。施策13では、家庭と地域の教育力向上、世代間交流などこれからの時代に欠かすことのできない重要な取り組みが行われています。施策14について、交流活動が盛んに行われており市民の意識や関心が高い施策となっています。

基本目標5の中の施策15では、文化財や自然に接し継承する取り組みが世代を超えて行われています。施策16については、いずれの活動も盛況であり参加者の関心の更なる高まりに期待いたします。施策17では、課題をふまえてこれまでの取り組みを継承しつつ、地元出身者や学生の発表の場などを含めた新たな視点を模索する必要もあると考えます。

基本目標6の施策18では、世代間の交流を含めた積極的な取り組みが展開されています。さまざまな方の参加が可能となるような企画、運営に期待をいたします。施策19に関しては、施設面での難しい課題もありますが、利用者との情報共有を図りながら、安全で充実した活動の継続に結びつけていただきたいと思います。施策20について、スポーツ指導者育成は学校教育との関係からも重要であり、競技間の連帯を含めた拡充に期待をいたします。

令和元年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和2年11月発行

発行/海津市教育委員会

〒503-0695

岐阜県海津市海津町高須 515 番地

TEL 0584-53-1467 Fax 0584-53-1608

<http://www.city.kaizu.lg.jp/>